

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係			
旧約聖書原典講読Ⅰ a		左近 豊	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校）		
	＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 旧約聖書ヒブル語本文を批判的手続きを経ながら読むことを主眼とします。			
＜到達目標＞ 学生がテキストの文献学的諸問題、そして文芸学的特徴を把握することができるようになる。			
＜授業の概要＞ エレミヤ書と哀歌を取り上げます。それぞれに旧約の民の歩みの重要な局面で語られた言葉であり、旧約聖書の人間観、世界観、そして歴史観を反映しています。写本、古代訳を参照しつつヒブル語本文を読み、教会での説教、聖書研究における釈義に資する諸資料の紹介と活用を実際を学びます。			
＜履修条件＞ ヒブル語文法履修者			
＜授業計画＞ 第1回：エレミヤ書 序 1:1-3 第2回：エレミヤ書 1:4-8 第3回：エレミヤ書 1:9-10 第4回：エレミヤ書 1:11-13 第5回：エレミヤ書 1:14-16 第6回：エレミヤ書 1:17-19 第7回：エレミヤ書 2:1-3 第8回：エレミヤ書 2:4-6 第9回：エレミヤ書 2:7-9 第10回：エレミヤ書 2:10-13 第11回：エレミヤ書 2:14-16 第12回：哀歌 1:3~5 第13回：哀歌 1:6~7 第14回：哀歌 1:8~11 第15回：総括			
＜準備学習等の指示＞ 事前に当該箇所の釈義上の諸問題を把握し、神学的思索を携えて授業に臨むことが望ましい。			
＜テキスト＞ Biblia Hebraica Stuttgartensia (BHS)			
＜参考書・参考資料等＞ 辞書:F.Brown, S.R.Driver, and C.A.Briggs eds., <i>Hebrew and English Lexicon of the Old Testament</i> . (BDB)、L. Koehler and W.Baumgartner, <i>The Hebrew and Aramaic Lexicon of the Old Testament (HALOT)</i> 、 文法書: <i>Gesenius' Hebrew Grammar</i> 、B.Waltke and M.O'Connor, <i>An Introduction to Biblical Hebrew Syntax</i> 、H.Bauer and P.Leander, <i>Historische Grammatik der hebraeischen Sprache</i> . 参考書:ヴェルトヴァイン著『旧約聖書の本文研究』、E.Tov, <i>Textual Criticism of the Hebrew Bible</i> 、『左近淑著作集Ⅲ』、Field, <i>Origenis Hexapla</i> コンコルダンス:Lisowsky, <i>Konkordanz zum Hebraeischen Alten Testament</i> 、S.Mandelkern, <i>Veteris Testamenti concordantiae hebraicae atque chaldaicae</i> 、E.Hatch and H.A.Redpath, <i>A Concordance to the Septuagint and the other Greek Versions of the Old Testament (LXX)</i> など			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 授業参加 60% 期末レポート 40%			

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係			
旧約聖書原典釈義Ⅰ a		本間 敏雄	<担当形態> 単独
前期・2単位		<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
<授業のテーマ> 創世記19章ロト・ソドム物語と、20章アブラハム・アビメレク物語をヘブライ語原典（マソラ本文）において釈義する。			
<到達目標> 当該テキストの文脈、段落構成、ヘブライ語本文の語分析と構文分析によりテキストを本文学的に釈義し、資料説、伝承史等釈義の基礎的方法論を修得する。現代の代表的印刷聖書BHS及びBHQ本文とマソラ情報の特質を理解し、それぞれの脚注の内容判断と背景洞察、本文学的评价ができる。レニングラード写本（Codex Leningradensis）を読むことができ、写本本文の基礎的特質をマソラと共に理解しつつ聖書学的テキスト解釈ができる。			
<授業の概要> 創世記19章ロト・ソドム物語と、20章アブラハム・アビメレク物語をヘブライ語原典（レニングラード写本L）において読み、写本本文の特質とマソラを概説（写本（マソラ本文）の諸現象と釈義との関係性等）。ヘブライ語本文の語分析と構文分析、本文批判、文献批判、形態史、資料説、伝承史等の釈義的諸方法を検討しつつ釈義し、当該諸テキストの「生活の座」（Sitz im Leben）と「テキストの神学」理解を試みたい。 ロト・ソドム物語はイスラエル史に重要な役割を演じたモアブ人、アンモン人の起源を伝え、アブラハム・アビメレク物語は父祖アブラハム像に関わる特異な内容を持ちつつ、イサク誕生への伏線を準備する。学びと討議を通して内容的、聖書学的思索を深めたい。現代の印刷聖書本文と脚注の特質も学ぶ。また最近の新しい翻訳と既存の諸邦訳の関係、性格と問題点も把握したい。後期課程「旧約聖書原典特殊研究a」と合同。			
<履修条件> ヘブライ語基礎文法修得者。			
<授業計画> 第1回 19：1－3 リエンテーション、ソドム物語、2人の御使い 第2回 19：4－9 ソドムの男たち 第3回 19：10－14 二人の客とロト家族 第4回 19：15－17 逃亡命令 第5回 19：18－22 ツォアル 第6回 19：23－29 ソドムとゴモラの滅亡 第7回 19：30－38 ロトの娘たち、モアブとアンモン 第8回 五書研究史（資料説等）と原典釈義 第9回 20：1－3 アブラハムとアビメレク、託宣 第10回 20：4－7 弁明と応答 第11回 20：8－10 アビメレクの譴責 第12回 20：11－13 アブラハムの弁解 第13回 20：14－16 アビメレクの対応 第14回 20：17－18 結末 第15回 総括（聖書学的、神学的）			
<準備学習等の指示> ヘブライ語本文を BHS により記し、辞書作業により各節毎に文意を考察する。なお諸翻訳における相違と本文理解を考察し、当該本文を「ヒブル語入門」（下記）特に10文の構造（構文論）において調査すると釈義の問題点を把握し易い。			
<テキスト> Biblia Hebraica Stuttgartensia（BHS）：Genseisis、Biblia Hebraica Quinta（BHQ）：Genesis、レニングラード写本（Codex Leningradensis）写真版。「ヒブル語入門」（改訂増補版 左近/本間）（10文の構造（構文論）、12補説：本文の諸現象（補注一覧））。			
<参考書・参考資料等> 「旧約聖書釈義入門」（H.バルト／O.H.シュテック 山我哲雄訳）。「ヘブライ語聖書への手引き」（R.ウォンネベルガー 松田伊作訳）、A simplified guide to BHS（H.P.Rueger）。「旧約聖書の本文研究」（E.ヴェルトヴァイン 鍋谷／本間共訳）。C.ガースマン「創世記Ⅰ」（山我哲雄訳）、Von Rad, Genesis(ATD)。諸文献、資料は順次提示。なおヘブライ語本文と諸翻訳の関連の実例については「翻訳と本文」（1）～（34）（『形成』273～315号所収、1993.9/10－1997.3）。（マソラ本専門的資料→特研）。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 予習状況と課題発表、討議、レポート（本文7000字以上）の総合で評価する。			

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係			
旧約聖書原典釈義 I b		本間 敏雄	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
<授業のテーマ> 創世記21章イサク誕生、ハガル・イシュマエル物語、ベエル・シェバ伝承と、22章アブラハムのイサク奉獻物語をヘブライ語原典（マソラ本文）において釈義する。			
<到達目標> 当該テキストの文脈、段落構成、ヘブライ語本文の語分析と構文分析によりテキストを本文学的に釈義し、資料説、伝承史等釈義の基礎的方法論を修得する。現代の代表的印刷聖書BHS及びBHQ本文とマソラ情報の特質を理解し、それぞれの脚注の内容判断と背景洞察、本文学的評価ができる。レニングラード写本（Codex Leningradensis）を読むことができ、写本本文の基礎的特質をマソラと共に理解しつつ聖書学的テキスト解釈ができる。			
<授業の概要> 創世記21章イサク誕生、ハガル・イシュマエル物語、ベエル・シェバ伝承と、22章アブラハムのイサク奉獻物語をヘブライ語原典（レニングラード写本 L）において読み、写本本文の特質とマソラを概説（写本（マソラ本文）の諸現象と釈義との関係性等）。ヘブライ語本文の語分析と構文分析、本文批判、文献批判、形態史、資料説、伝承史等の釈義的諸方法を検討しつつ釈義し、当該諸テキストの「生活の座」（Sitz im Leben）と「テキストの神学」理解を試みたい。 イサク誕生物語、アブラハムのイサク奉獻物語は、イスラエル思想史とユダヤ教神学における最重要なテキストと言える。とりわけ主の山伝承・イサク奉獻物語は困難な解釈的課題を内包し、キリスト教的解釈（interpretatio christiana）と相まって考察を要求する。学びと討議を通して内容的、聖書学的思索を深めたい。現代の印刷聖書本文と脚注の特質も学ぶ。また最近の新しい翻訳と既存の諸邦訳の関係、性格と問題点も把握したい。後期課程「旧約聖書原典特殊研究 b」と合同。			
<履修条件> ヘブライ語基礎文法修得者。			
<授業計画> 第1回 オリエンテーション、21：1－3 サラの出産 第2回 21：4－7 イサク命名 第3回 21：8－13 問題生起、父の苦悩と託宣 第4回 21：14－18 荒野の母子と託宣 第5回 21：19－21 井戸と子供 第6回 21：22－26 アビメレクとアブラハム 第7回 21：27－34 契約：ベエル・シェバ 第8回 22：1－3 試み：命令と応答 第9回 22：4－6 三日目に 第10回 22：7－8 父子の会話 第11回 22：9－12 父の行為、天の介入 第12回 22：13－14 雄羊、アドナイ・イルエ 第13回 22：15－19 託宣 第14回 22：20－24 ナホルの子孫 第15回 総括、問題、神学			
<準備学習等の指示> ヘブライ語本文を BHS により記し、辞書作業により各節毎に文意を考察する。なお諸翻訳における相違と本文理解を考察し、当該本文を「ヒブル語入門」（下記）特に10文の構造（構文論）において調査すると釈義的問題点を把握し易い。			
<テキスト> Biblia Hebraica Stuttgartensia (BHS) : Genseisis, Biblia Hebraica Quinta (BHQ) : Genesis、レニングラード写本 (Codex Leningradensis) 写真版。「ヒブル語入門」（改訂増補版 左近/本間）（10文の構造（構文論）、12補説：本文の諸現象（補注一覧））。			
<参考書・参考資料等> 「旧約聖書釈義入門」（H.バルト／O.H.シュテック 山我哲雄訳）。「ヘブライ語聖書への手引き」（R.ウォンネベルガー 松田伊作訳）、A simplified guide to BHS (H.P.Rueger). 「旧約聖書の本文研究」（E.ヴェルトヴァイン 鍋谷／本間共訳）。C.ゲスタマン「創世記 I」（山我哲雄訳）、Von Rad, Genesis(ATD)。諸文献、資料は順次提示。なおヘブライ語本文と諸翻訳の相関の実例については「翻訳と本文」（1）～（34）（『形成』273～315号所収。1993.9/10－1997.3）。（マソラ本専門的資料→特研）。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 予習状況と課題発表、討議、レポート（本文 7000 字以上）の総合で評価する。			

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係			
旧約聖書神学特講Ⅱ a		小友 聡	<担当形態> 単独
前期・2単位		<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
<授業のテーマ> 故大住雄一先生の旧約学諸論文、とりわけ 2010 年以降のものを読み、先生の神学的遺産を学ぶ。			
<到達目標> 大住雄一先生が旧約学者として何を考え、何を目指したかを知る。			
<授業の概要> 毎回、大住雄一先生の旧約論文の一つをじっくり読み、全員で議論する。			
<履修条件> 大住先生の旧約学を学び、また、それをきちんと理解したい人。			
<授業計画> 第1回 オリエンテーション 第2回 『神のみ前に立って 十戒の心』（教文館）2016 年、第 1～7 回 第3回 〃、 第 8～13 回 第4回 〃、 第 14～20 回 第5回 〃、 第 21～27 回 第6回 『聖書』（わたしたちと宗教改革第 2 巻）（教団出版局）2017 年、第 1～2 章 第7回 〃、 第 3～4 章 第8回 〃、 第 5 章～ 第9回 「ノアの子らの系図―聖書の中の世界」（『神学』64、2002 年） 第10回 「律法からキリストへ」（『神学』70、2008 年） 第11回 「聖書学は礼拝学である―「伝道と現代神学の課題」をめぐる聖書学的考察」（『神学』71、2009 年） 第12回 「救済と創造」（『神学』73、2011 年） 第13回 「説教のことばと法のことば―申命記の構造とすることばの性質」（『神学』75、2013 年） 第14回 「種入れぬパンの祭り―農耕の祭りの歴史化という構想について」（『聖書学論集』46、2014 年） 第15回 まとめ			
<準備学習等の指示> あらかじめ大住先生の論文を読む。			
<テキスト> 大住雄一先生の著作『神のみ前に立って 十戒の心』（教文館）、『聖書』（わたしたちと宗教改革第 2 巻、教団出版局）を用意すること。また、大住先生の学術的諸論文はコピーを用いる。			
<参考書・参考資料等> その都度指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業への参加度と学期末のレポート（6,000 字）で評価する。			

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係			
旧約聖書神学特講Ⅱ b		小友 聡	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 死海文書の「共同体の規則」と「ダマスコ文書」を、ヘブライ語の原典を参照しながら、読む。			
＜到達目標＞ 死海文書の神学と思想を理解し、全体像を展望できるようにする。			
＜授業の概要＞ 死海文書翻訳委員会訳『死海文書Ⅰ』を用いて、「共同体の規則」と「ダマスコ文書」を講読する。			
＜履修条件＞ 死海文書に関心があり、旧約聖書との繋がりを知りたい人。			
＜授業計画＞ 第1回 オリエンテーション 第2回 死海文書とは 第3回 「共同体の規則」「ダマスコ文書」概説 第4回 1Q 共同体の規則（テキスト1～9頁） 第5回 1Q 共同体の規則（テキスト～20頁） 第6回 1Q 共同体の規則（テキスト～30頁） 第7回 4Q 共同体の規則（テキスト～45頁） 第8回 4Q 共同体の規則（テキスト～60頁） 第9回 4Q 共同体の規則（テキスト～74頁） 第10回 ダマスコ文書（テキスト～88頁） 第11回 ダマスコ文書（テキスト～100頁） 第12回 ダマスコ文書（テキスト～112頁） 第13回 4Q ダマスコ文書（テキスト～122頁） 第14回 4Q ダマスコ文書（テキスト～130頁） 第15回 4Q ダマスコ文書			
＜準備学習等の指示＞ あらかじめテキストの原典と翻訳を読み、その思想内容をよく考える。			
＜テキスト＞ 死海文書翻訳委員会訳『死海文書Ⅰ 共同体の規則・終末規定』、ぷねうま舎、6,200 円を購入すること。原典はこちらで用意する。			
＜参考書・参考資料等＞ その都度指示する。コリント（山吉訳）『「死海文書」物語』（教文館、2020 年）の一読を勧める。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 授業での発表のほか、学期末に死海文書に関するレポート（6,000 字）で評価する。			

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係			
旧約聖書学特研Ⅰ a		田中 光	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 詩編の解釈			
＜到達目標＞ 詩編の言葉を丁寧に、そしてより深く掘り下げ、その神学的メッセージを理解すること			
＜授業の概要＞ 詩編を皆で注解的に考察し、適宜個別のトピックの考察も行いながら、演習形式で授業を進める。学生の皆さんには、その日の授業で割り当てられた毎回の詩編を事前に原典でできるだけ読んでいただき、また注解書その他の二次資料も読んでいただいた上で、授業にのぞんでいただく。授業では詩編の言葉を原典を参照しながら読み進め、詩編の言葉の解釈を巡る議論を互いに紹介し合いながら、詩編の言葉を深く把握することを目指す。			
＜履修条件＞ ヒブル語を既に受講していること。			
＜授業計画＞ 第1回 オリエンテーション&イントロダクション+研究史概観①（歴史批評的研究以前） 第2回 研究史概観②（歴史批評的研究以後） 第3回 詩編1編① 前半部分を講読 第4回 詩編1編② 後半部分を講読 第5回 詩編2編① 前半部分を講読 第6回 詩編2編② 後半部分を講読 第7回 詩編3編① 前半部分を講読 第8回 詩編3編② 後半部分を講読 第9回 詩編4編① 前半部分を講読 第10回 詩編4編② 後半部分を講読 第11回 個別トピックの考察① 第12回 詩編5編① 前半部分を講読 第13回 詩編5編② 後半部分を講読 第14回 詩編6編① 前半部分を講読 第15回 詩編6編② 後半部分を講読			
＜準備学習等の指示＞ 事前に次回扱う詩編を原典で読み、解釈上の課題を注解書で把握しておくこと。尚、進度には若干の変更が生じる場合がある。			
＜テキスト＞ BHS、聖書諸翻訳			
＜参考書・参考資料等＞ 初回授業にて指示する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 各授業における参加度と、各期末のショート・ペーパーで評価する。			

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係		
旧約聖書学特研Ⅰb	田中 光	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
<授業のテーマ> 詩編の解釈		
<到達目標> 詩編の言葉を丁寧に、そしてより深く掘り下げ、その神学的メッセージを理解すること		
<授業の概要> 詩編を皆で注解的に考察し、適宜個別のトピックの考察も行いながら、演習形式で授業を進める。学生の皆さんには、その日の授業で割り当てられた毎回の詩編を事前に原典でできるだけ読んでいただき、また注解書その他の二次資料も読んでいただいた上で、授業にのぞんでいただく。授業では詩編の言葉を原典を参照しながら読み進め、詩編の言葉の解釈を巡る議論を互いに紹介し合いながら、詩編の言葉を深く把握することを目指す。		
<履修条件> ヒブル語を既に受講していること		
<授業計画> 第1回 詩編7編① 前半部分を講読 第2回 詩編7編② 後半部分を講読 第3回 詩編8編① 前半部分を講読 第4回 詩編8編② 後半部分を講読 第5回 詩編9編① 前半部分を講読 第6回 詩編9編② 後半部分を講読 第7回 詩編10編① 前半部分を講読 第8回 詩編10編② 後半部分を講読 第9回 個別トピックの考察② 第10回 詩編11編① 前半部分を講読 第11回 詩編11編② 後半部分を講読 第12回 詩編12編① 前半部分を講読 第13回 詩編12編② 後半部分を講読 第14回 詩編13編① 前半部分を講読 第15回 詩編13編② 後半部分を講読		
<準備学習等の指示> 事前に次回扱う詩編を原典で読み、解釈上の課題を注解書で把握しておくこと。尚、進度には若干の変更が生じる場合がある。		
<テキスト> BHS、聖書諸翻訳		
<参考書・参考資料等> 初回授業にて指示する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 各授業における参加度と、各期末のショート・ペーパーで評価する。		

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係			
旧約聖書学演習Ⅰ a		矢田 洋子	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 旧約聖書学の基本文献をじっくり読み、旧約学の基本知識を身に着ける。			
＜到達目標＞ 旧約聖書神学の基本的用語を理解することにより、旧約学の専門書を読んで理解できるようになる。			
＜授業の概要＞ ブルッグマン『旧約聖書神学用語辞典』のすべての項目を読み、毎回その内容をめぐって議論する。毎回、参加者に内容報告をしていただく。			
＜履修条件＞ ヘブライ語の知識はなくてもよい。旧約専攻以外の方々の履修を期待する。			
＜授業計画＞ 第1回：オリエンテーション 第2回：愛、贖い、アシェラ、アッシリア、荒れ野、安息日、イゼベル、一神教 第3回：祈り、栄光、エジプト、エズラ、選び、エリヤ、エルサレム、王権／王制 第4回：応報、割礼、カナン人、金、神顕現、神の似姿、神の箱、感謝 第5回：義、聞く、犠牲、奇跡、希望、教育、共同体、寄留者 第6回：悔い改め、苦難の僕、苦しみ、契約、契約の書、混沌、祭司 第7回：祭司伝承、サタン、サマリア人、賛美、死、十戒、祝祭、祝福 第8回：出エジプト、主の日、書記、贖罪、神義論、信仰、神殿、申命記神学 第9回：救い、性、聖／聖性、正典、聖なる高台、戦争、創造、族長 第10回：墮罪、ダビデ、地、知恵、罪、天使、伝承、天上の会議 第11回：トラー、嘆き、残りの者、バアル、バビロン、ハンナ、ヒゼキヤの改革 第12回：復讐、復活、プリム、フルダ、ペルシア、ヘレム、豊穡宗教、暴力 第13回：捕囚、ミリアム、メシア、黙示思想、モーセ、約束、寡婦、赦し 第14回：預言者、ヨシヤの改革、ヨベル、隣人、倫理、霊、礼拝、歴史 第15回：歴代誌史家、災い、主、（全体のまとめ）			
＜準備学習等の指示＞ 毎回、あらかじめ辞典項目を読んでおくこと。			
＜テキスト＞ W.ブルッグマン（小友左近監訳）『旧約聖書神学用語辞典』日本キリスト教団出版局、6820円。			
＜参考書・参考資料等＞ A.ベルレユング／C.フレーフェル（山吉訳）『旧約新約聖書神学事典』教文館、その他は授業で指示する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 発表の内容、及び、提出していただくレポートによって評価する。			

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係			
旧約聖書学演習Ⅰb		矢田 洋子	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ ダニエル書を旧約聖書正典の一書物であることを意識して読み解く。			
＜到達目標＞ ダニエル書をよく知り、黙示として特別視するだけでなく、旧約聖書の他の書物との関連から考察できるようになる。			
＜授業の概要＞ 黙示文書として知られるダニエル書を取り上げ、注解書、コンコーダンスを利用しつつ、特にこの書と祭儀の関係についてあらゆる視点から考察する。			
＜履修条件＞ ヘブライ語、アラム語の知識を前提とはしないが、コンコーダンスの利用ができることが望ましい。			
＜授業計画＞ 第1回 オリエンテーション 第2回 ダニエル書総論、ダニエル書はどういう書か。 第3回 ダニエル書1章 第4回 ダニエル書2章 第5回 ダニエル書3章 第6回 ダニエル書4章 第7回 ダニエル書5章 第8回 ダニエル書6章 第9回 ダニエル書7章 第10回 ダニエル書8章 第11回 ダニエル書9章 第12回 ダニエル書10章 第13回 ダニエル書11章 第14回 ダニエル書12章 第15回 総括			
＜準備学習等の指示＞ 毎回、ダニエル書を1章ずつ積義し、それに基づいて「祭儀」との関係について討議する。			
＜テキスト＞ 新共同訳聖書、聖書協会共同訳聖書、Biblia Hebraica Stuttgartensia (BHS)			
＜参考書・参考資料等＞ コンコーダンス；G.Lisowsky, <i>Konkordanz zum Hebräischen Alten Testament</i> など。 注解書；W.S.タウンナー『ダニエル書』現代聖書注解、N.ポーチャス『ダニエル書』ATD、J.J.Collins, <i>A Commentary on the Book of Daniel</i> , Hermeneia、J.E.Goldingay, <i>Daniel</i> , WBC、S. Pace, <i>Daniel</i> , Smyth&Helwys、他。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 各章をレポートしていただき、また学期末にダニエル書についての提出レポートによって評価する。			

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係			
アラム語 a		佐藤 泉	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞通年での履修が望ましい。	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞旧約聖書原典の一部はアラム語で書かれており、古代訳の中にはアラム語訳旧約聖書のタルグムがある。そのようなアラム語のテキストを読むためのアラム語文法の基礎を学ぶ。マソラテキストとタルグムの比較を行う基礎を養う。			
＜到達目標＞①アラム語文法の基礎を身につける。②身につけたアラム語文法の基礎を生かし、辞書も用いながら、聖書のアラム語のテキストや古代訳の一つであるタルグムを読むことができるようになる。			
＜授業の概要＞聖書のアラム語のテキストを実際に読みながら（創世記31：47・エレミヤ10：11・エズラ4：8－24・5：1－17など）、アラム語文法を学ぶ。			
＜履修条件＞ヒブル語履修済みであること。			
＜授業計画＞ 第1回：序 アラム語について、言語グループ、時代区分などを話す。 第2回：創世記31：47を読みつつ、アラム語の名詞・形容詞を学ぶ。 第3回：エレミヤ10：11を読みつつ、動詞のPeal形の完了・未完了を学ぶ。 第4回：エズラ4：8－24の講読(1) 不規則変化の名詞について学ぶ。 第5回：エズラ4：8－24の講読(2) 動詞のHapel形の完了を学ぶ。 第6回：エズラ4：8－24の講読(3) 動詞のPeal形の分詞、Hitpeel形の完了・未完了を学ぶ。 第7回：エズラ4：8－24の講読(4) 動詞のPael形の完了・未完了、Hapel形の未完了を学ぶ。 第8回：エズラ4：8－24の講読(5) 動詞のHapel形の分詞を学ぶ。 第9回：エズラ4：8－24の講読(6) 動詞のPael形・Hitpeel形・Hitpaal形の分詞を学ぶ。 第10回：エズラ4：8－24の講読(7) 二根字動詞のPeal形と動詞の不定詞・命令を学ぶ。 第11回：エズラ5：1－17の講読(1) 前置詞と代名詞語尾を学ぶ。 第12回：エズラ5：1－17の講読(2) 二根字動詞のHapel形を学ぶ 第13回：エズラ5：1－17の講読(3) 二根字動詞のHitpeel形を学ぶ。 第14回：エズラ5：1－17の講読(4) Pê Yôd 動詞の変化を学ぶ。 第15回：エズラ5：1－17の講読(5) Pê Nûn 動詞の変化を学ぶ。			
＜準備学習等の指示＞講読箇所として指示されているアラム語テキストについて、できる範囲で準備すること。講読箇所について、マソラテキストのアパルトゥスにも注意を払うこと。			
＜テキスト＞Biblia Hebraica Stuttgartensia ; Biblia Hebraica Quinta –20– Ezra and Nehemiah ; Franz Rosenthal, A Grammar of Biblical Aramaic, Harrassowitz Verlag・Wiesbaden, 1995, Sixth, revised edition			
＜参考書・参考資料等＞左近義慈編著、本間敏雄改訂増補『ヒブル語入門』[改訂増補版] 教文館、2011 ; William L. Holladay, A Concise Hebrew and Aramaic Lexicon of the Old Testament, Grand Rapids, 1971 ; Gustaf Dalman, Grammatik des jüdisch-palästinischen Aramäisch, Darmstadt : Wissenschaftliche Buchgesellschaft , 1960 ; Marcus Jastrow, A dictionary of Targumim, the Talmud Babli and Yerushalmi, and the Midrashic literature v1, v2, New York: Pardes, 1950			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞予習・復習、積極的な授業参加の状況、講読箇所に関する発表、単語等に親しむための小テスト等によって成績をつける。			

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係			
アラム語 b		佐藤 泉	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞通年での履修が望ましい。	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞旧約聖書原典の一部はアラム語で書かれており、古代訳の中にはアラム語訳旧約聖書のタルグムがある。そのようなアラム語のテキストを読むためのアラム語文法の基礎を学ぶ。マソラテキストとタルグムの比較を行う基礎を養う。			
＜到達目標＞①アラム語文法の基礎を身につける。②身につけたアラム語文法の基礎を生かし、辞書も用いながら、聖書のアラム語のテキストや古代訳の一つであるタルグムを読むことができるようになる。			
＜授業の概要＞聖書のアラム語のテキストを実際に読みながら（ダニエル書）、アラム語文法の学びを継続する。さらに、エレミヤ書などのタルグムの講読もする。（箇所は未定。授業中に指示する。）			
＜履修条件＞ヒブル語履修済みであること。			
＜授業計画＞ 第1回：ダニエル書の緒論的知識を確認し、前期の文法の復習をしつつ、ダニエル書の講読に備える。 第2回：ダニエル書の講読(1) Pê' ālep 動詞の Peal 形を学ぶ。 第3回：ダニエル書の講読(2) Pê' ālep 動詞の Hapel 形を学ぶ。 第4回：ダニエル書の講読(3) 動詞の変化で字位転換が起こる場合について学ぶ。 第5回：ダニエル書の講読(4) Lamed' ālep・Lamed Hê 動詞の変化を学ぶ。 第6回：ダニエル書の講読(5) 二重' ayin 動詞の Peal 形を学ぶ。 第7回：ダニエル書の講読(6) 二重' ayin 動詞の Hopal 形を学ぶ。 第8回：ダニエル書の講読(7) 代名詞語尾付きの動詞の変化を学ぶ。 第9回：ダニエル書の講読(8) 喉音を含む動詞について学ぶ。 第10回：ダニエル書の講読(9) 特殊な変化をする動詞について学ぶ。 第11回：エレミヤ書の緒論的知識とバビロニア方式の母音記号を確認し、タルグムの講読に備える。 第12回：タルグムの講読(1) バビロニア方式の母音記号で読むことに慣れる。 第13回：タルグムの講読(2) タルグムのアラム語の動詞の変化を学ぶ。 第14回：タルグムの講読(3) アラム語文法を全体的に思い出しつつ読む。 第15回：タルグムの講読(4) 原典や七十人訳と比較しつつ読むことを味わう。			
＜準備学習等の指示＞講読箇所として指示されているアラム語テキストについて、できる範囲で準備すること。講読箇所について、マソラテキストのアパラートゥスにも注意を払うこと。			
＜テキスト＞Biblia Hebraica Stuttgartensia；The Pentateuch according to Targum Onkelos；The Former Prophets according to Targum Jonathan；The Latter Prophets according to Targum Jonathan；Franz Rosenthal, A Grammar of Biblical Aramaic, Harrassowitz Verlag・Wiesbaden, 1995, Sixth, revised edition			
＜参考書・参考資料等＞左近義慈編著、本間敏雄改訂増補『ヒブル語入門』[改訂増補版] 教文館、2011；William L. Holladay, A Concise Hebrew and Aramaic Lexicon of the Old Testament, Grand Rapids, 1971；Gustaf Dalman, Grammatik des jüdisch-palästinischen Aramäisch, Darmstadt：Wissenschaftliche Buchgesellschaft，1960；Marcus Jastrow, A dictionary of Targumim, the Talmud Babli and Yerushalmi, and the Midrashic literature v1, v2, New York: Pardes, 1950			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞予習・復習、積極的な授業参加の状況、講読箇所に関する発表、単語等に親しむための小テスト等によって成績をつける。			

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係			
古代オリエント史Ⅰb		月本 昭男	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
<授業のテーマ> 旧約聖書の歴史的・文化史的背景としての古代オリエント史とくに文化史的考察。			
<到達目標> 古代オリエントの歴史と文化を学習し、古代イスラエルの歴史と宗教におよぼした影響を理解する。			
<授業の概要> 古代オリエントの図像および文献資料を配布し、その歴史的・文化史的意味を考察する。			
<履修条件> 履修条件にはしないが、ヘブライ語初修を終えていることが望ましい。			
<授業計画> 第1回 古代オリエントの風土と都市文明のはじまり 第2回 楔形文字文化の展開とアルファベットの考案 第3回 シュメル都市国家における神殿、王権、民会 第4回 シュメル都市国家からセム系領土国家への展開 第5回 古代メソポタミア法典とバビロニア社会の特質 第6回 アマルナ文書にみる前二千年紀後半の民族史 第7回 新アッシリア王国の勃興と軍事遠征政策の歴史 第8回 新バビロニア王国の勃興とネブカドレツァル 第9回 古代メソポタミアの神話と文学①『エヌマ・エリシュ』 第10回 古代メソポタミアの神話と文学②『アトラ・ハシース』 第11回 古代メソポタミアの神話と文学③『ギルガメシュ叙事詩』 第12回 古代メソポタミアの神話と文学④『バビロニアのヨブ』他 第13回 古代メソポタミアの宗教と呪術①呪術儀礼と呪禱 第14回 古代メソポタミアの宗教と呪術①預言文書とト占 第15回 総括とまとめ			
<準備学習等の指示> 準備は必要ないが、配布資料および指示した参考書にもとづく復習を心がけること。			
<テキスト> 特に定めない。			
<参考書・参考資料等> その都度紹介するが、小林登志子著『古代メソポタミア全史』（中公新書、2020年）、月本昭男（監修）『古代メソポタミアの光芒』（山川出版社、2011年）などを勧める。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 学期末レポート。			

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係		
聖書考古学 a	月本 昭男	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	該当せず	
<授業のテーマ> 考古資料に基づく旧約聖書の歴史と文化。		
<到達目標> 具体的事例をとおして、旧約聖書の歴史と文化の理解に欠かせない考古学的資料のもつ重要性を理解する。		
<授業の概要> 考古資料（遺構、遺物、文書）に基づき、旧約聖書の歴史的・文化史的背景を論ずる。		
<履修条件> 古代イスラエル史の基本を習得していること。聖書ヘブライ語基本文法を習得していることが望ましい。		
<授業計画> 第1回 遺跡と遺跡調査、聖書考古学の範囲 第2回 イスラエルの起源をめぐる考古学研究 第3回 都市の構造①城壁、城門、公共建造物 第4回 都市の構造②給水施設、一般住居の構造 第5回 Kingdom か Chiefdom か。統一王朝時代 第6回 シャルマナセル3世とエヒウ 第7回 センナケリブとヒゼキヤ 第8回 考古学から見た原初史①エデンの園（上） 第9回 考古学から見た原初史②エデンの園（下） 第10回 考古学から見た原初史③洪水物語とバベルの塔 第11回 古代ヘブライ語碑文：オストラカを中心に 第12回 円筒印章と古代イスラエルのスタンプ印象 第13回 古代イスラエルの埋葬法と他界観 第14回 祈りの現象学：考古資料からみた祈り 第15回 イスラエルにおける日本調査団による発掘 定期試験		
<準備学習等の指示> 毎回の準備学習は必要ないが、授業開始前に下に掲げる参考書を少なくとも一冊、読み通しておくこと。		
<テキスト> 特に定めない。		
<参考書・参考資料等> 月本昭男『目で見える聖書の時代』（日本キリスト教団出版局、第10版、2019年）、長谷川修一『旧約聖書の世界と時代』（日本キリスト教団出版局、2011年）、長谷川修一『聖書考古学―遺跡が語る史実』（中公新書、2013年）		
<学生に対する評価（方法・基準）> クラスへの積極参加と学期末レポート。		

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係			
修士論文指導演習 旧約神学Ⅰ		小友 聡	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
<授業のテーマ> 翌年度前期末に修士論文を提出しようとする前期課程1年次生の論文執筆の指導と情報交換を行う。			
<到達目標> 修士課程修了にふさわしい論文が書けるようになる。			
<授業の概要> 論文を執筆することの意味とプロセスを解説し、テキスト研究及び二次文献の検索を行う。			
<履修条件> 2021年9月に旧約に関する修士論文を提出する予定である者は、必ず参加すること。			
<授業計画> 第1回 導入。論文執筆の意味 第2回 課題の見いだし方 律法関係 第3回 課題の見いだし方 預言者関係 第4回 課題の見いだし方 文学関係 第5回 テキスト翻訳 律法関係 第6回 テキスト翻訳 預言者関係 第7回 テキスト翻訳 文学関係 第8回 テキストの構造解明 律法関係 第9回 テキストの構造解明 預言者関係 第10回 テキストの構造解明 文学関係 第11回 辞書、コンコルダンスの使い方 第12回 二次文献の検索方法 第13回 暫定的な文献表の作成 第14回 二次文献の使い方 第15回 方法を使いこなす			
<準備学習等の指示> 毎回割り当てられた課題を発表する準備をすること。			
<テキスト> ビブリア・ヘブライカほか、論文執筆者別に指示する。			
<参考書・参考資料等> 毎回必要な文献を指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 割り当てられた課題の発表（50％）、討論への貢献（50％）を総合して評価する。			

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係			
修士論文指導演習 旧約神学Ⅱ		小友 聡	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 今年度前期末に修士論文を提出しようとする前期課程2年次生の論文執筆の指導と情報交換を行う。			
＜到達目標＞ 修士課程修了にふさわしい論文を執筆、完成させる。			
＜授業の概要＞ 論文の準備研究を各自が発表し、参加者がこれについて質問し、意見を述べる。			
＜履修条件＞ 本年9月に旧約に関する修士論文提出予定者は必ず参加すること。			
＜授業計画＞ 第1回 導入。論文執筆の手順 第2回 問題設定 律法関係 第3回 問題設定 預言者関係 第4回 問題設定 文学関係 第5回 研究史 律法関係 第6回 研究史 預言者関係 第7回 研究史 文学関係 第8回 主要テーマ 律法関係 第9回 主要テーマ 預言者関係 第10回 主要テーマ 文学関係 第11回 論証過程 律法関係 第12回 論証過程 預言者関係 第13回 論証過程 文学関係 第14回 結論 第15回 最終的な質疑応答			
＜準備学習等の指示＞ 割り当てられた課題を発表できるようにしておくこと。			
＜テキスト＞ 論文執筆者別に指示する。			
＜参考書・参考資料等＞ 毎回必要な文献を指示する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 学期末には暫定的に可否のみ通知するが、最終的に提出論文の成績が本演習の成績となる。			

聖書神学専攻・新約聖書神学関係			
新約聖書学特研Ⅰ a		焼山 満里子	<担当形態> 単独
前期・2単位		<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
<授業のテーマ> 新約聖書神学から特に黙示思想研究を取り上げ、新約神学理解を深める。			
<到達目標> 旧約聖書からイエスまでの終末論の系譜をたどり、終末思想の起源と発展を理解する。			
<授業の概要> 新約聖書釈義、研究書講読を通してイエス、パウロ神学を深く学ぶ。			
<履修条件> なし。			
<授業計画> 第1回 オリエンテーション 第2回 門脇佳吉『パウロの中心思想』 第3回 テサロニケー1章釈義 第4回 テサロニケー2章釈義 第5回 テサロニケー3章釈義 第6回 テサロニケー4章釈義 第7回 テサロニケー5章釈義 第8回 テサロニケニ1章釈義 第9回 テサロニケニ2章釈義 第10回 テサロニケニ3章釈義 第11回 並木浩一『旧約聖書の水脈』第二部「預言者的精神の展開」1，2 第12回 並木浩一『旧約聖書の水脈』第二部「預言者的精神の展開」3，4 第13回 ヒンメルファーブ『黙示文学の世界』 第14回 ミークス『古代都市のキリスト教』6章 第15回 総括 まとめ			
<準備学習等の指示> 各回の課題著書、釈義を予め読ませて出席してください。			
<テキスト> 上記、図書館利用など各自準備してください。			
<参考書・参考資料等> 適宜案内します。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 毎回の授業参加、発表、期末レポート。			

聖書神学専攻・新約聖書神学関係			
新約聖書学特研Ⅰb		焼山 満里子	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 新約思想の中でもパウロ神学、黙示思想研究。			
＜到達目標＞ 黙示思想、終末論について旧約聖書からイエスを経てパウロ神学に至るまでを理解する。			
＜授業の概要＞ パウロ書簡の釈義、研究書講読を通してパウロ神学を学ぶ。			
＜履修条件＞ なし。			
＜授業計画＞ 第1回 オリエンテーション 第2回 『終末論の系譜』第一部 1章 預言者の終末論 第3回 『終末論の系譜』第一部 2章 バビロン捕囚以後の地上的・政治的終末待望 第4回 『終末論の系譜』第一部 3章 「天上の神殿」の表象と神秘主義 第5回 『終末論の系譜』第一部 4章 宇宙史の終末論 第6回 『終末論の系譜』第一部 5章 イエス時代の政治主義的メシア運動 第7回 『終末論の系譜』第二部 6章 「神の国は近づいた」 第8回 『終末論の系譜』第二部 7章 「人の子」イエスの再臨 第9回 『終末論の系譜』第二部 8章 過去の中に到来している未来 第10回 『終末論の系譜』第二部 9章 不法を「抑えている者」 第11回 『終末論の系譜』第二部 10章 万物の和解と平和 第12回 『終末論の系譜』第二部 11章 「人の子」・殺された神の子メシアの再臨 第13回 『終末論の系譜』第二部 12章 世の初めから隠されていること 第14回 『終末論の系譜』第二部 13章 遠ざかる終末 第15回 総括 まとめ			
＜準備学習等の指示＞ 各回の課題著書、釈義を予め読ませて出席してください。			
＜テキスト＞ 上記、各自、図書館利用など、準備してください。			
＜参考書・参考資料等＞ 適宜案内します。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 毎回の授業参加、発表、期末レポート。			

聖書神学専攻・新約聖書神学関係			
新約聖書原典釈義Ⅰ a		遠藤 勝信	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞原則として通年（a, b）で登録すること。但し、学期毎履修学生にも対応する。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ ヨハネによる福音書 18：01～19:37 までの原典釈義。ギリシア語新約聖書のテキストを歴史的、文学的、神学的文脈に基づいて解釈する方法を学ぶ。			
＜到達目標＞ 学生が、新約聖書学の基礎（研究史、釈義の方法論）を修得し、テキストと真摯に向き合う姿勢を学ぶ。			
＜授業の概要＞ はじめに近年のヨハネ福音書研究の動向（研究史、方法論）を概観し、釈義上の問題及び観点を確認する。その後、参加者による発表とディスカッション。			
＜履修条件＞ 新約ギリシャ語原典テキスト読解力を有すること。ギリシャ語中級文法の知識があることが望ましい。			
＜授業計画＞ Ⅰ. 講義を中心に 第01回 研究史を概観し、近年の研究状況と釈義の諸問題を学ぶ。 第02回 ギリシャ語新約聖書本文批評の実際。 第03回 テキストの文学批評の実際。 第04回 テキストと歴史批評の実際。 Ⅱ. 演習（参加者による釈義の発表とディスカッション）を中心に 第05回 ヨハネ18：01～11の原典釈義 第06回 ヨハネ18：12～18の原典釈義 第07回 ヨハネ18：19～24の原典釈義 第08回 ヨハネ18：25～32の原典釈義 第09回 ヨハネ18：33～40の原典釈義 第10回 ヨハネ19：01～09の原典釈義 第11回 ヨハネ19：10～16aの原典釈義 第12回 ヨハネ19：16b～24の原典釈義 第13回 ヨハネ19：25～30の原典釈義 第14回 ヨハネ19：31～37の原典釈義 Ⅲ. 総括 第15回 釈義演習の総括的な反省と展望。			
＜準備学習等の指示＞ クラスで取り上げる新約聖書テキストをギリシア語文法に則して読み、準備してクラスに出席すること。			
＜テキスト＞ Nestle-Aland (28 th ed., 2012), <i>Novum Testamentum Graece</i>			
＜参考書・参考資料等＞ R・ブルトマン著、杉原助訳『ヨハネの福音書』、2005年 R・A・カルペッパー著、伊東寿泰訳『ヨハネ福音書文学的解剖』2005年 R・ボウカム、浅野淳博訳『イエスとその目撃者たち』2011年 C.S. Keener, <i>The Gospel of John- A Commentary vol.1</i> , 2003.			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 授業における発表と期末試験（指定されたテキストについての釈義ペーパー [6,000～8,000 文字]）。釈義ペーパーに、新約聖書学の基礎的理解及びテキストへの真摯な取り組みが反映されているかを評価。尚、出席が三分の二を満たさない場合、期末試験の受験を許可しない。			

聖書神学専攻・新約聖書神学関係			
新約聖書原典釈義Ⅰb		遠藤 勝信	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞原則として通年（a, b）で登録すること。但し、学期毎履修学生にも対応する。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ ヨハネの黙示録 06：01～09:12 までの原典釈義。ギリシア語新約聖書のテキストを歴史的、文学的、神学的文脈に基づいて解釈する方法を学ぶ。			
＜到達目標＞ 学生が、新約聖書学の基礎（研究史、釈義の方法論）を修得し、テキストと真摯に向き合う姿勢を学ぶ。			
＜授業の概要＞ はじめに近年のヨハネ黙示録研究の動向（研究史、方法論）を概観し、釈義上の問題及び観点を確認する。その後、参加者による発表とディスカッション。			
＜履修条件＞ 新約ギリシャ語原典テキスト読解力を有すること。ギリシャ語中級文法の知識があることが望ましい。			
＜授業計画＞ Ⅰ. 講義を中心に 第01回 イントロダクション。黙示録の文学ジャンル。 第02回 黙示録を読む前に（その1）：黙示録の周辺、背景理解。 第03回 黙示録を読む前に（その2）：構造と構成、神学、他。 第04回 黙示録1章～2章7節までを概観し、釈義の営みにおける課題と観点を確認する。 Ⅱ. 演習（参加者による発表とディスカッション）を中心に 第05回 黙示録06：01～06の原典釈義 第06回 黙示録06：07～11の原典釈義 第07回 黙示録06：12～17の原典釈義 第08回 黙示録07：01～08の原典釈義 第09回 黙示録07：09～12の原典釈義 第10回 黙示録07：13～17の原典釈義 第11回 黙示録08：01～05の原典釈義 第12回 黙示録08：06～13の原典釈義 第13回 黙示録09：01～06の原典釈義 第14回 黙示録09：07～12の原典釈義 Ⅲ. 総括 第15回 釈義演習の総括的な反省と展望。			
＜準備学習等の指示＞ クラスで取り上げる箇所のギリシア語テキストを十分読み、準備してクラスに出席すること。			
＜テキスト＞ Nestle-Aland (28 th ed., 2012), <i>Novum Testamentum Graece</i>			
＜参考書・参考資料等＞ 佐竹明著『ヨハネの黙示録』（上・下巻）2009年 R・ボウカム著、飯郷友康・小河陽訳『ヨハネ黙示録の神学』2001年 R. Bauckham, <i>The Climax of Prophecy</i> , 1993. G. Beale, <i>The Book of Revelation</i> (NIGTC), 1999. D. Aune, <i>Revelation 6-16</i> (WBC), 1997. S. Smalley, <i>The Revelation of John</i> (IVP), 2005. 他、クラスで随時紹介。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 授業における発表と期末試験（指定されたテキストについての釈義ペーパー [6,000～8,000 文字]）。釈義ペーパーに、新約聖書学の基礎的理解及びテキストへの真摯な取り組みが反映されているかを評価。尚、出席が三分の二を満たさない場合、期末試験の受験を許可しない。			

聖書神学専攻・新約聖書神学関係			
新約聖書原典釈義Ⅱ a		三永 旨従	<担当形態> 単独
前期・2単位		<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
<授業のテーマ> 山上の説教を中心にマタイによる福音書の神学を検討する			
<到達目標> マタイの神学的特徴を踏まえた上でマタイの教会論を論じることができるようになる			
<授業の概要> 山上の垂訓の原典の精緻な講読を通して、その構造、中心的テーマを探っていく			
<履修条件> 新約ギリシャ語の基礎を習得済みで、学部レベルの原典釈義の能力を身に着けていること			
<授業計画> 第1回 「嵐を鎮める奇跡」、「十字架」の箇所から見られるマタイの神学的特徴 第2回 「ペテロの信仰告白」の箇所の神学的特徴とマタイ的教会論 第3回 マタイ5：1～16の釈義 「幸い」とは何か 第4回 マタイ5：17～26の釈義 「律法と義」に関する問題 第5回 マタイ5：27～48の釈義 「禁止命令」について 第6回 マタイ5章の中心的用語の検討 第7回 マタイ6：1～18の釈義 「施し、祈り、断食」について 第8回 マタイ6：19～24の釈義 「富」に関して 第9回 マタイ6：25～34の釈義 「思い悩むな」について 第10回 マタイ6章の中心的用語の検討 第11回 マタイ7：1～12章の釈義 「求めなさい」について 第12回 マタイ7：13～23の釈義 「狭い門」とは 第13回 マタイ7：24～28の釈義 「家と土台」について 第14回 マタイ7章の中心的用語の検討 第15回 マタイ5～7章の構造に関する検討 定期試験			
<準備学習等の指示> 学生各自が互いに共同し、協力しあってテキストの読みと神学的検討に励むこと			
<テキスト> ・Nestle-Aland, NOVUM TESTAMENTUM GRAECE（27版）に基づいた対観福音書（授業にて紹介） ・“A CONCORDANCE TO THE GREEK TESTAMENT: According to the Texts of Westcott and Hort, Tishendorf and the English Revisers” W.F. Moulton, A.S. Geden, T&T Clark. Ltd.（各自で購入することを強く勧める。）			
<参考書・参考資料等> 特になし			
<学生に対する評価（方法・基準）> テキストへの取り組みと口頭試問により評価			

聖書神学専攻・新約聖書神学関係			
新約聖書原典釈義Ⅱ b		三永 旨従	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
<授業のテーマ> 山上の説教を中心にマタイによる福音書の神学、特にその教会論を検討する			
<到達目標> 新約聖書原典釈義Ⅱ a の継続として原点の読みに基づいたマタイの教会論を深く論じることができるようになる			
<授業の概要> 新約聖書原典釈義Ⅱ a で検討したマタイ的教会論のまとめ、及び旧約との関連を考察する			
<履修条件> 「新約聖書原典釈義Ⅱ a 」を履修済みであること			
<授業計画> 第1回 マタイ 5～7 章の構造についての継続議論 第2回 マタイ 5～7 章全般に見られる特徴的用語の検討 第3回 マタイ 5～7 章に見られる「天」と「地」についての考察 第4回 マタイが独自に用いる「天国」と「地」との関連について 第5回 主の祈りの中心テーマ 第6回 「偽善」との戦いについての検討 第7回 マタイが独自に用いる「地名」と「地」について 第8回 マタイによる福音書全体から見た「天」と「地」についての考察 第9回 マタイ的教会論と「地」について 第10回 旧約のイザヤ書との関連 第11回 『インマヌエル・キリスト論』について 第12回 ヨシュア記と『インマヌエル・キリスト論』の関連について 第13回 ヨシュア記とマタイによる福音書の関連について 第14回 マタイ 5～7 章の中心をなすテーマについての考察 第15回 マタイ 5～7 章の中心的な神学についての考察 定期試験			
<準備学習等の指示> 学生各自が互いに共同し、協力しあってテキストの読みと神学的検討に励むこと			
<テキスト> ・ Nestle-Aland, NOVUM TESTAMENTUM GRAECE（27 版）に基づいた対観福音書（授業にて紹介） ・ “A CONCORDANCE TO THE GREEK TESTAMENT: According to the Texts of Westcott and Hort, Tishendorf and the English Revisers” W.F. Moulton, A.S. Geden, T&T Clark. Ltd.（各自で購入することを強く勧める。）			
<参考書・参考資料等> 特になし			
<学生に対する評価（方法・基準）> テキストへの取り組みと口頭試問により評価			

聖書神学専攻・新約聖書神学関係			
修士論文指導演習　新約神学Ⅰ		中野　実 焼山　満里子	<担当形態> 複数
後期・2単位		<登録条件>　新約神学で修論を書く予定の学生	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校）		
	<科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）		
<授業のテーマ>　来年度に修士論文を提出予定の、新約聖書神学専攻の大学院一年生のための演習。			
<到達目標>　適切なテーマを選定することができ、論文を書くための技術を身につけることができる。			
<授業の概要>　論文を書くとはどういうことかを学びつつ、各自その課題を進めていく。毎回、学生の発表を中心に進められていく。全体としては二人の教員が共に責任を負うが、それぞれの指導担当学生との個別指導も織り交ぜながら行なわれる。			
<履修条件>　2022年9月に修論を提出予定の学生			
<授業計画>			
第1回　オリエンテーション 第2回　論文を書くとは？ 第3回　各自の課題、問題探し 第4回　その課題、問題に関連するテキスト探し 第5回　課題テキストについて深く学ぶ 第6回　テーマの選定、見直し、決定 第7回　研究のための方法およびツールについて 第8回　資料、先行研究探し 第9回　先行研究の学び 第10回　先行研究の学びとそこからの展開 第11回　問題設定、テーゼへ向かって 第12回　問題設定、テーゼの吟味 第13回　題名、目次作成へ向かって 第14回　議論の組み立てへ向かって 第15回　まとめ			
<準備学習等の指示>　論文はモノログではないので、教師、学生との対話を大事にすること。			
<テキスト>　必要に応じて、指示する。			
<参考書・参考資料等>　必要に応じて、指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）>　クラスへの出席、課題への積極的参加度などによって総合的に評価する。テーマの選定、課題テキストの学び、先行研究の学び、論文を書く技術をみがくことなどに関して十分な努力をしているかどうかの評価の指標となる。			

聖書神学専攻・新約聖書神学関係			
修士論文指導演習　新約神学Ⅱ		中野　実 焼山　満里子	＜担当形態＞ 複数
前期・２単位		＜登録条件＞　新約専攻の大学院２年生	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校）		
	＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　宗教）		
＜授業のテーマ＞　今年度前期末に修論を提出予定の学生のための演習。			
＜到達目標＞　各自が修士論文を進めていくために必要な手助けが与えられ、論文を仕上げることができる。			
＜授業の概要＞　論文の執筆段階における、各自の研究発表が中心となる。指導教授および参加学生の質問や意見をききつつ、論文を仕上げていく。			
＜履修条件＞　2021年９月に新約聖書神学専攻で修士論文を提出予定の学生			
＜授業計画＞ 第１回　　オリエンテーション 第２回　　問題設定の点検 第３回　　資料の点検 第４回　　題名、目次、議論の枠組みを整える。 第５回　　より明確な問題設定の獲得 第６回　　（仮）序論の執筆 第７回　　研究史に関する発表 第８回　　研究史に基づく展開 第９回　　論文のテーゼ、発表 第１０回　論文のテーゼの点検 第１１回　議論の組み立て　発表 第１２回　議論の組み立て　点検 第１３回　結論を書く 第１４回　論文のフォーマットの整理、注、文献表など。 第１５回　まとめ			
＜準備学習等の指示＞　クラスで指示する。			
＜テキスト＞　必要に応じて、指示する。			
＜参考書・参考資料等＞　必要に応じて、指示する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞　クラスへの出席、課題への参加度などによって、総合的に評価する。修士論文を仕上げていく課題にどれほど積極的に取り組んでいるかが評価の指標となる。			

組織神学専攻・組織神学関係		
組織神学特講Ⅱ a	須田 拓	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
<授業のテーマ> 教会論の諸相を学ぶことを通して、現代神学の議論に触れ、深い教義学の理解を持つことを目指す。		
<到達目標> 教会について、現代神学にどのような議論があるのかを知り、自ら考えることができるようになる。		
<授業の概要> 教会論（但し聖礼典についての理解を除く）について講義する。論点を整理した上で、現代の様々な神学者の議論を概観し、あるべき教会論の姿を模索する。		
<履修条件> 特になし		
<授業計画> 第1回 オリエンテーション 第2回 教会論の論点(1) 教会の本質 第3回 教会論の論点(2) 見える教会の形成 第4回 教会の本質と救済における位置(1) カール・バルトの場合 第5回 教会の本質と救済における位置(2) ヴォルフハルト・パネンベルクの場合 第6回 教会の本質と救済における位置(3) ユルゲン・モルトマン、ロバート・ジェンソンの場合 第7回 中間総括 第8回 見える教会とその形成(1) カール・バルトの場合 第9回 見える教会とその形成(2) ヴォルフハルト・パネンベルクの場合 第10回 見える教会とその形成(3) ユルゲン・モルトマン、ロバート・ジェンソンの場合 第11回 見える教会とその形成(4) コリン・ガントンの場合 第12回 三位一体と教会(1) コリン・ガントンの場合 第13回 三位一体と教会(2) ミロスラフ・ヴォルフの場合 第14回 教会論についてのその他の事項について 第15回 まとめ		
<準備学習等の指示> 前回までの復習をした上で、授業で扱われるテーマについて、自分なりの考えをまとめてみる		
<テキスト> 特になし		
<参考書・参考資料等> 授業において、必要に応じて指示する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> レポート（4,000字程度）によって評価する。		

組織神学専攻・組織神学関係			
組織神学特講Ⅱ b		須田 拓	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校）		
	＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 人間の自由について、神学史上の論点とその教義学的理解を概説する。			
＜到達目標＞ 人間の自由について、神学史上の議論を知り、自ら神学的に考えることができるようになる。			
＜授業の概要＞ 自由意志とキリスト者の自由について、神学史上の議論及び現代の議論を、組織神学の観点から講義する。			
＜履修条件＞ 特になし			
＜授業計画＞ 第1回 オリエンテーション 第2回 論点の整理 第3回 自由意志論(1) アウグスティヌスの場合とペラギウス論争 第4回 自由意志論(2) エラスムスとルターの場合 第5回 自由意志論(3) カルヴァンの場合 第6回 自由意志論(4) アルミニウス主義者の場合 第7回 自由意志論(5) ピューリタンとジョナサン・エドワーズの場合 第8回 自由意志論(6) 現代の神学者の場合 第9回 中間総括 第10回 キリスト者の自由(1) ルターとカルヴァンの場合 第11回 キリスト者の自由(2) ピューリタンの場合 第12回 キリスト者の自由(3) カール・バルトの場合 第13回 キリスト者の自由(4) ヴォルフハルト・パネンベルクの場合 第14回 キリスト者の自由(5) ユルゲン・モルトマンの場合 第15回 まとめ			
＜準備学習等の指示＞ 前回までの復習をした上で、授業で扱われるテーマについて、自分なりの考えをまとめてみる			
＜テキスト＞ 特になし			
＜参考書・参考資料等＞ 授業において、必要に応じて指示する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ レポート（4,000字）によって評価する。			

組織神学専攻・組織神学関係			
組織神学特研Ⅰ		神代 真砂実	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞ 特になし。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 2001 年以降、つまり、今世紀に入ってから現れた組織神学関係の書物、あるいは哲学書を精読し、内容を批判的に吟味しながら、組織神学的思考力を鍛える。			
＜到達目標＞ ①文献の内容について深い理解を得る。②その内容を思想史的文脈や現代の課題との関連の中で考えられるようになる。③文献を批判的に読むことで、神学的な主体性を獲得する。			
＜授業の概要＞ A・コリアーの批判的実在論に立つ宗教哲学（2003 年出版）を学ぶことで、キリスト教信仰の今日的な弁証の可能性を考える。			
＜履修条件＞ 毎回 10 頁ほどの英語のテキストを読み、さらに内容についてよく考えて出席することが求められる。一回の発表に 3,000 字程度のレジュメを用意して貰うが、内容的にも高度なものを求めるので、最低 5 名の履修者が得られない場合には開講しない。また、履修する場合には、最後まで投げ出さないこと。			
＜授業計画＞ 第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 テキスト、pp. viii-xvi。 第 3 回 同、pp. 1-8。 第 4 回 同、pp. 9-20。 第 5 回 同、pp. 20-22。 第 6 回 同、pp. 23-34。 第 7 回 同、pp. 35-41。 第 8 回 同、pp. 41-51。 第 9 回 同、pp. 53-63。 第 10 回 同、pp. 65-75。 第 11 回 同、pp. 77-85。 第 12 回 同、pp. 85-90。 第 13 回 同、pp. 91-100。 第 14 回 同、pp. 100-108。 第 15 回 まとめ			
＜準備学習等の指示＞ テキストに事前に目を通すことは大前提であるが、さらに内容や関連事項についても自分で調べ、考えてくることが重要である。教室が、担当者（教員）と学生とで対等に議論する場になることが期待されている。			
＜テキスト＞ Andrew Collier, <i>On Christian Belief: A Defence of a Cognitive Conception of Religious Belief in a Christian Context</i> (London: Routledge, 2003). （担当者がコピーを配付する。）			
＜参考書・参考資料等＞ 授業の中で適宜、指示する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 発表・授業への参加度・期末レポート（本文 8,000 字以上）の総合による。			

組織神学専攻・組織神学関係			
組織神学演習Ⅱ a		神代 真砂実	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞ 特になし。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校・高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 組織神学の代表的文献であるカール・バルトの『教会教義学』の精読を通して、組織神学的思考を養う。また、20世紀の代表的神学者であるバルトの神学思想の特色について基本的な事柄を理解する。			
＜到達目標＞ ①高度な神学書の読解力を身に着ける。②バルトの神学的思惟の特徴を理解する。③バルトを通して教義学の特定の課題についての総合的な理解を身に着ける。			
＜授業の概要＞ バルトの『教会教義学』から和解論の贖罪論にあたる部分（59節）を学ぶ。テキストを精読し、その内容についての議論を重ね、また、適宜、解説を加えることで理解を深める。			
＜履修条件＞ 難しい学びに挑戦し、自分の可能性を広げようとする意欲を持っていること。			
＜授業計画＞ 第1回 オリエンテーション 第2回 テキスト、3～28頁（59節 1. 異郷に赴く神の子の道①） 第3回 同、28～51頁（同②） 第4回 同、52～74頁（同③） 第5回 同、74～98頁（同④） 第6回 同、99～131頁（2. われわれに代って審かれ給うた者としての審判者①） 第7回 同、131～162頁（同②） 第8回 同、162～189頁（同③） 第9回 同、189～214頁（同④） 第10回 同、214～233頁（同⑤） 第11回 同、234～254頁（3. 父の判決①） 第12回 同、254～284頁（同②） 第13回 同、284～309頁（同③） 第14回 同、309～340頁（同④） 第15回 同、340～367頁（同⑤）			
＜準備学習等の指示＞ 演習なので、必ずテキストをよく読んでから出席すること。			
＜テキスト＞ カール・バルト、『教会教義学・和解論Ⅰ／2 僕としての主イエス・キリスト 上』、井上良雄訳（新教出版社、オンデマンド）。			
＜参考書・参考資料等＞ 授業の中で適宜、紹介する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 授業への参加度（30％）および小課題（70％）による。			

組織神学専攻・組織神学関係			
組織神学演習Ⅲ a		芳賀 力	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞ 通年(a, b)での登録が望ましい。	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校）		
	＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 永遠の命と神の国をめぐるキリスト教的希望について研究する。			
＜到達目標＞ 現在的終末論の立場と見られる P. ティリッヒと未来的終末論を主張する J. モルトマンの神学を正確に理解し、それぞれの特色と問題点を明確にする。			
＜授業の概要＞ 前期は主としてティリッヒの『組織神学』の第5部「歴史と神の国」のテーマを扱う。分担を決め、順番に担当箇所の要約とコメントをしてもらう。終わったらモルトマンの『神の到来』の最初の部分に入る。			
＜履修条件＞ 聖書神学専攻者であっても構わない。			
＜授業計画＞ 第1回 オリエンテーション(1)： <u>ティリッヒ神学の特徴</u> について述べる。 第2回 I A 1 「人間と歴史」を読む。 第3回 I A 2 「一歴史と存在の範疇」を読む。 第4回 I A 3 「歴史の動態」を読む。 第5回 B 「歴史的次元における生の曖昧さ」を読む。 第6回 C 「歴史解釈と神の国の探求」を読む。 第7回 II A 「歴史の動態と新しき存在」を読む。 第8回 B 「神の国と教会」を読む。 第9回 C 「神の国と世界史」を読む。 第10回 III A 「歴史の目標または永遠の生命」を読む。 第11回 B 「個々の人格とその永遠の運命」& C 「神の国—時間と永遠」を読む。 第12回 オリエンテーション(2)：モルトマン神学の特徴について述べる。 第13回 I 1 「現代における終末論の時間化」& 2 「終末論の永遠化」を読む。 第14回 3 「来たりたもう神の終末論」& 4 「ユダヤ教におけるメシア思想の再生」を読む。 第15回 総括			
＜準備学習等の指示＞ 内容の濃いディスカッションにするため、分担に当たっていなくても、次の回のテキストを前もって読んでおくこと。			
＜テキスト＞ P. ティリッヒ『組織神学 第三巻』土居真俊訳、新教出版社、1984 年、373－533 頁。J. モルトマン『神の到来—キリスト教的終末論』蓮見和男訳、新教出版社、1996 年。受講生には部分コピーを作成する。			
＜参考書・参考資料等＞ 藤倉恒雄『ティリッヒの「組織神学」研究』新教出版社、1988 年。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 授業への出席と討論への参加を重視する。学期末にレポートを提出する。			

組織神学専攻・組織神学関係			
組織神学演習Ⅲ b		芳賀 力	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞ 通年(a, b)での登録が望ましい。	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校）		
	＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 前期に引き続いて、永遠の命と神の国をめぐるキリスト教的希望について研究する。			
＜到達目標＞ 未来的終末論を主張する J. モルトマンの神学を正確に理解し、その特色と問題点を明確にする。			
＜授業の概要＞ 後期はモルトマンの『神の到来』を順番に読み、内容を検討し、批判的な対論を試みる。分担を決め、順番に担当箇所の要約とコメントをしてもらう。			
＜履修条件＞ 聖書神学専攻者であっても構わない。			
＜授業計画＞ 第1回 II 1「愛された生と死」& 2「魂の不滅か肉体のよみがえりか」を読む。 第2回 3「死は罪の結果か、生の自然の終わりか」を読む。 第3回 4「死者はどこにいるのか」を読む。 第4回 5「死・悲嘆・慰め」を読む。 第5回 III 1「歴史の黙示録」を読む。 第6回 2「メシア的終末論—千年王国」& 3「政治的千年王国説—神聖王国」を読む。IV 第7回 4「政治的千年王国説—救済者・国民」& 5「教会的千年王国説—諸国民の母・教師」を読む。 第8回 6「画期的千年王国説」& 7「千年王国的終末論は必要か」を読む。 第9回 8「人間の歴史の終わる時—時の終局主義」& 9「歴史の終り—現代の歴史の終わりの預言者たち」を読む。 第10回 10「黙示的終末論は必要か」& 11「万物の復興」を読む。 第11回 IV 1「創造の将来安息日とシェキーナ」& 2「世界の絶滅か完成か」を読む。 第12回 3「神の永遠性における時間の終り」を読む。 第13回 4「神の現臨における空間の終り」& 5「宇宙的神殿—天のエルサレム」の(1),(2),(3)を読む。 第14回 5「宇宙的神殿—天のエルサレム」の(4),(5)& V「栄光—神的終末論」を読む。 第15回 総括			
＜準備学習等の指示＞ 内容の濃いディスカッションにするため、分担に当たっていなくても、次の回のテキストを前もって読んでおくこと。			
＜テキスト＞ J. モルトマン『神の到来—キリスト教的終末論』蓮見和男訳、新教出版社、1996年。受講生には部分コピーを作成する。			
＜参考書・参考資料等＞ J. モルトマン『希望の神学』高尾利数訳、新教出版社、1968年。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 授業への出席と討論への参加を重視する。学期末にレポートを提出する。			

組織神学専攻・組織神学関係			
信条学		芳賀 力	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞ 専攻に関係なく登録可。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 歴史的教会の生み出した諸信条の特色を学ぶ。また教義学の項目に沿って、直接信条の神学を学ぶ。			
＜到達目標＞ 授業の前半で、まず古代教会の基本信条、次いで宗教改革期以後の代表的な信条の特色を把握する。授業の後半でロールスのテキストの各項目を一つずつ読み、実際に信条本文に触れながら、その神学的意味を理解する。			
＜授業の概要＞ 前半は資料を配付し、講義を行う。後半は担当を決め、教義学の主題ごとに発題し、コメントしてもらう。			
＜履修条件＞ 大学院博士課程前期・後期に在籍している者は誰でも履修できる。			
＜授業計画＞ 第1回：信条・信仰告白とは何かを押さえた上で、使徒信条を学ぶ。 第2回：ニケア・コンスタンティノポリス信条を学ぶ。またロールスのテキスト「啓示、神の言葉、伝統」の項目を読む。 第3回：アタナシオス信条を学ぶ。またロールスのテキスト「神の本性と三位一体論」の項目を読む。 第4回：カルケドン信条を学ぶ。またロールスのテキスト「創造と摂理」の項目を読む。 第5回：ルター大・小教理問答を学ぶ。またロールスのテキスト「人間と罪」の項目を読む。 第6回：アウグスブルク信仰告白を学ぶ。またロールスのテキスト「恵みの契約と和解」の項目を読む。 第7回：ジュネーヴ教会信仰問答を学ぶ。またロールスのテキスト「キリスト論とカルヴァン主義的な外部」の項目を読む。 第8回：フランス信仰告白を学ぶ。またロールスのテキスト「義認と信仰」の項目を読む。 第9回：第一・第二スイス信仰告白を学ぶ。またロールスのテキスト「聖化と悔改め」の項目を読む。 第10回：スコットランド信仰告白を学ぶ。またロールスのテキスト「選びと棄却」の項目を読む。 第11回：ハイデルベルク信仰問答を学ぶ。またロールスのテキスト「教会とそのしるし」の項目を読む。 第12回：ドルト信仰規準を学ぶ。またロールスのテキスト「御言葉と聖礼典」の項目を読む。 第13回：ウェストミンスター信仰告白を学ぶ。またロールスのテキスト「神の言葉の二様態」の項目を読む。 第14回：パルメン宣言を学ぶ。またロールスのテキスト「洗礼」の項目を読む。 第15回：日本基督教団信仰告白を学ぶ。またロールスのテキスト「聖餐」の項目を読む。			
＜準備学習等の指示＞ 教室で渡す資料をよく整理し、保存しておくこと。担当者は分担してテキストをよく読むこと。			
＜テキスト＞ 『信条集 前後篇』新教出版社、1994年。各自購入すること。またJ・ロールス『改革教会信仰告白の神学』一麦出版社、2009年。研究室にて割引価格で頒布する。			
＜参考書・参考資料等＞ 信条に関する研究書を授業で指示する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 出席と授業での発表、期末レポートを総合的に評価する。			

組織神学専攻・組織神学関係			
修士論文指導演習 組織神学Ⅰ		神代 真砂実	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件> 狭義の組織神学および実践神学の分野で修士論文を執筆する予定の者。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
<授業のテーマ> 修士論文執筆のために必要な技能を学ぶこと、および、修士論文の準備をすること。			
<到達目標> ①組織神学の論文を書くとはどういうことか、そのために必要な技能や作業は何か、を身に着けること。②修士論文執筆に備えての基礎的準備作業（主要文献の読解等）を終えること。			
<授業の概要> 前半では主に論文執筆の過程を学ぶ。後半では各自の修士論文の準備を進めて貰い、順番に報告・発表して貰う。			
<履修条件> 2022 年度に修士論文提出予定の者は必修。			
<授業計画> 第1回 オリエンテーション——論文の基本的要件 第2回 発表①：各自の論文の主題について 第3回 論文作成の技法①：テキストの分析——全体的な内容の把握 第4回 論文作成の技法②：テキストの分析——構成を把握する 第5回 論文作成の技法③：テキストの分析——書き方を考える 第6回 論文作成の技法④：主題の決定・文献探しについて 第7回 論文作成の技法⑤：リサーチ・主張（テーゼ）の発見・目次の検討 第8回 論文作成の技法⑥：パラグラフ 第9回 発表②：修士論文の主題と文献について（1） 第10回 発表③：同（2） 第11回 発表④：内容の構想について（1） 第12回 発表⑤：内容の構想について（2） 第13回 発表⑥：内容の構想について（3） 第14回 発表⑦：修士論文の主題と文献表と基本構想（1） 第15回 発表⑧：同（2）			
<準備学習等の指示> 授業をきちんと受けること・自分の研究を着実に進めること。			
<テキスト> 担当者が用意するプリント。			
<参考書・参考資料等> 泉忠司、『90分でコツがわかる！ 論文&レポートの書き方』（青春出版社）。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業への参加度および発表による。			

組織神学専攻・組織神学関係			
修士論文指導演習 組織神学Ⅱ		神代 真砂実	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 修士論文の作成にあたり、適切な内容と形式について学ぶ。			
＜到達目標＞ 修士論文を完成・提出すること。			
＜授業の概要＞ 各自の学びの成果を順に報告して貰うことで内容を検討すると共に、論文の体裁を持つ短い文章を書いて貰いながら、形式面での基本的技法を学ぶ。			
＜履修条件＞ 2021年9月に狭義の組織神学および実践神学の分野で修士論文を提出予定の者は必修。			
＜授業計画＞ 第1回 オリエンテーション——修士論文の基本的要件の確認 第2回 各自の論文の主題と文献について① 第3回 各自の論文の主題と文献について② 第4回 各自の論文の主題と文献について③ 第5回 主要文献の読書報告① 第6回 主要文献の読書報告② 第7回 主要文献の読書報告③ 第8回 二次文献から学んだことについての報告① 第9回 二次文献から学んだことについての報告② 第10回 二次文献から学んだことについての報告③ 第11回 主張（テーゼ）と目次と内容の構想について① 第12回 主張（テーゼ）と目次と内容の構想について② 第13回 主張（テーゼ）と目次と内容の構想について③ 第14回 主張（テーゼ）と目次と内容の構想について④ 第15回 形式面の確認・提出の要領について			
＜準備学習等の指示＞ 最大限の時間と能力とを傾注すること。			
＜テキスト＞ 特になし。			
＜参考書・参考資料等＞ 特になし。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 発表による。			

組織神学専攻・歴史神学関係			
教理史演習Ⅱ a		棚村 重行	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 「洗礼、聖餐、教会と職務－中世・宗教改革から現代まで」			
＜到達目標＞ 主題についての現代神学的学びの後、第一次史料を読みながら、各時代の諸教理を検討し、それらの現代的意義を論じる。			
＜授業の概要＞ 前期では「洗礼と聖餐」の教理の発展を扱う。先ず WCC の「リマ文書」の洗礼と聖餐の合意を学ぶ。中世・宗教改革時代から近代の諸教派、日本基督教団の信仰告白や礼拝式文に表現された教理を検討する。			
＜履修条件＞ 特になし。			
＜授業計画＞ 第1回 コースの紹介。履修者との導入討議 第2回 発表（一） 「リマ文書」の「洗礼」について。（学生2～3名） 第3回 発表（二） 「リマ文書」の「聖餐」について。（学生2～3名） 第4回 資料研究（一） 中世の洗礼と聖餐論1（第四ラテラノ公会議、その他公式教令文書） 第5回 資料研究（二） 同上 2（枢機卿カジェタン、S. プリエリアス、C. ヘーン） 第6回 資料研究（三） 宗教改革の洗礼と聖餐論1（ルターとルター派の「一致信条書」他） 第7回 資料研究（四） 同上 2（ツヴィングリ、布林ガーと「第二スイス信仰告白」） 第8回 資料研究（五） 同上 3（カルヴァンとジュネーヴの諸信仰告白。「ハイデルベルク信仰問答」） 第9回 資料研究（六） 同上 4（イングランド教会の「三十九箇条」その他） 第10回 資料研究（七） 同上 5（再洗礼派および関連諸信仰宣言） 第11回 資料研究（八） 同上 6（トレント公会議およびその後の近・現代カトリックの諸教令など） 第12回 資料研究（九） ピューリタニズムの洗礼と聖餐論（「ウェストミンスター信仰告白」、「サボイ宣言」他。） 第13回 資料研究（十） メソディズムの洗礼と聖餐論（J.ウェスレーと「宗教箇条」） 第14回 資料研究（十一） 日本の諸教派の洗礼と聖餐論1（改革－長老派系、会衆派系、メソディスト系、バプテスト系、その他） 第15回 資料研究（十二） 同上 2 日本の基督教団の「口語式文」における洗礼と聖餐理解、まとめ 定期試験			
＜準備学習等の指示＞ 講義形式で第一次資料を読むので、予習よりも復習を重視すること。			
＜テキスト＞ 『洗礼・聖餐・職務－教会の見える一致をめざして』（教団出版局）。			
＜参考書・参考資料等＞ A.E.マクグラス『宗教改革の思想』（教文館）。その他は、授業中に指示する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 1. 発表を除き、平生は資料研究中心なので、積極的に質疑応答に参加すること。2. 期末には、各自洗礼と聖餐のテーマについて、興味のある二つの異なる人物、運動の教理を取り上げ、第一次史料を分析し比較・検討せよ。現代神学と実践の立場からそれら教理の意義をレポートで論ぜよ。（分量は、400字詰めで25枚以内）。			

組織神学専攻・歴史神学関係			
教理史演習Ⅱ b		棚村 重行	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 「洗礼、聖餐、教会と職務－中世・宗教改革から現代まで」			
＜到達目標＞ 主題についての現代神学的学びの後、第一次史料を読みながら、各時代の諸教理を検討し、それらの現代的意義を論じる。			
＜授業の概要＞ 後期では「教会と職務」の教理の発展を扱う。先ず WCC の「リマ文書」等の教会と職務の合意を学ぶ。中世・宗教改革時代から近代の諸教派、そして日本基督教団の信仰告白や礼拝式文に表現された教理を検討する。			
＜履修条件＞ 特にない。			
＜授業計画＞ 第1回 コース紹介。履修者との導入討議。 第2回 発表（一） 「教会」についての現代の教理論文を読む。（学生2～3名）。 第3回 発表（二） 「リマ文書」の「職務」について。（学生3～4名） 第4回 資料研究（一） 中世の教会と職務論1（中世の教会と職務への公式教令文書） 第5回 資料研究（二） 同上 2（トマス・アキナス、ヤン・フス、教皇ピウス二世等） 第6回 資料研究（三） 宗教改革の教会と職務論1（ルターとルター派の「一致信条書」他） 第7回 資料研究（四） 同上 2（ツヴィングリ、布林ガーと「第二スイス信仰告白」） 第8回 資料研究（五） 同上 3（カルヴァンとジュネーヴの諸信仰告白、「ハイデルベルク信仰問答」） 第9回 資料研究（六） 同上 4（イングランド教会の「三十九箇条」その他） 第10回 資料研究（七） 同上 5（再洗礼派および関連諸信仰宣言） 第11回 資料研究（八） 同上 6（トレント公会議およびその後の近・現代のカトリックの諸教令など） 第12回 資料研究（九） ピューリタニズムの教会と職務論（「ウェストミンスター信仰告白」、「サボイ宣言」） 第13回 資料研究（十） メソディズムの教会と職務論（J.ウェスレーと「宗教箇条」） 第14回 資料研究（十一） 日本の諸教派の教会と職務論1（改革－長老派系、会衆派系、メソディスト系、バプテスト系、その他） 第15回 資料研究（十二） 同上 2 日本基督教団の「口語式文」における教会と職務理解、まとめ。 定期試験			
＜準備学習等の指示＞ 講義形式で第一次資料を読むので、予習よりも復習を重視すること。			
＜テキスト＞ 『洗礼・聖餐・職務－教会の見える一致をめざして』（教団出版局）。			
＜参考書・参考資料等＞ A.E.マクグラース『宗教改革の思想』（教文館）。他は授業中に指示する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 前期に同じ。			

組織神学専攻・歴史神学関係			
教会史特講Ⅰ a		棚村 重行	<担当形態> 単独
前期・2単位		<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
<授業のテーマ> 「英米日・福音主義の歴史―神学・信仰復興・教会形成」。			
<到達目標> 履修者が、英米日の教会関係史のコンテクストにおいて、17 世紀～20 世紀の主要な信仰復興・教会形成の福音主義神学にかんする第一次史料テキストを読み、歴史洞察を深めることを目指す。以上の目標を前期課程の受講者の期末論文のテーマと関連づけて理解し、展開してゆく応用力の発揮を、レポートで立証する。			
<授業の概要> 前期では、最初に日本の「福音主義の歴史」研究の批評を行う。その上で「国際教会関係史」の観点を提起し、17～19 世紀前半（1650-1860）までの英米のピューリタニズム移植、第一次、第二次大覚醒運動期の福音主義神学と信仰復興運動論、教会形成史について、講義と史料分析を行う。			
<履修条件> 現代・近代プロテスタント神学思想の基本的な知識、あるいは英米教会史・神学思想史などへのある程度の関心と素養が必要である。			
<授業計画> 第1回：コース紹介。導入講義：日本の「福音主義」「福音主義の歴史」研究の批評(佐藤敏、古屋、青木他) 第2回：講義（一）：アメリカ教会史と神学思想史論の吟味：F. ボンヘッファー、W.G. マックラクリン他。 第3回：史料分析（一）：17～18 世紀「ピューリタン大覚醒」（T. フッカー）と英国メソジズム（ウェスレー）。 第4回：講義（二）：18 世紀北米における「第一次大覚醒運動」（1730～1760）植民地時代の三大教派の出現。 第5回：史料分析（二）：J. エドワーズ（1）：「[ニューイングランド信仰復興の忠実な報告] 他。 第6回：史料分析（三）：J. エドワーズ（2）：「信仰復興についての幾つかの考察」他。 第7回：講義（三）：18 世紀北米のメソジズム神学、信仰復興、教会形成：「宗教箇条」、A. クラーク等。 第8回：講義（四）：19 世紀前半の「第二次大覚醒運動」（1800～1830）開拓時代の三大教派成長。 第9回：史料分析（四）：19 世紀前半の新派カルヴァン主義神学の誕生：N.W.テイラー、L.ビーチャー等。 第10回：史料分析（五）：C.G.フィニー（1）：回心についての説教、「組織神学」から。 第11回：史料分析（六）：C.G. フィニー(2)：「宗教の復興とは何か？」 第12回：史料分析（七）：長老派内の新派カルヴァン主義：A. バーンズ 「救いの道」 第13回：史料分析（五）：メソジストの神学、信仰復興、教会形成：P.カートライト、D.D. ウィードン。 第14回：講義（五）：幕末開国期日本：改革派・長老派・会衆派型およびメソジスト型「二つの福音」問題 第15回：講義（六）：若き植村正久、本多庸一：福音主義神学、信仰復興、教会形成。 定期試験			
<準備学習等の指示> テキストの予習と復習が大切である。そのために、とくに予習に力を入れ、授業中の議論を準備すること。			
<テキスト> ①W. G. McLoughlin, <i>The American Evangelicals, 1800-1900</i> , Harper and Low, 1968(コピー本で配布)。②D. A. Sweeney, <i>The American Evangelical Story</i> , Baker, 2005.（部分的にコピー資料として配布）。			
<参考書・参考資料等> 授業中に追って紹介する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 前期で扱ったテーマを一つ取り上げ、それに関連した重要な第一次史料を批判的に分析し自分の解釈にもとづくレポートを作成し、提出する。分量は 400 字詰め原稿用紙に換算して 20－25 枚以内。			

組織神学専攻・歴史神学関係			
教会史特講Ⅰb		棚村 重行	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
<授業のテーマ> 「英米日・福音主義の歴史―神学・信仰復興・教会形成」			
<到達目標> 英米日の教会関係史のコンテキストにおいて、17 世紀～20 世紀の主要な信仰復興・教会形成の福音主義神学の第一次史料テキストを読み、歴史洞察を深める以上の目標を、前期課程の受講者の期末論文のテーマと関連づけて理解し、展開してゆく応用力の発揮を、レポートで立証する。			
<授業の概要> 後期では、最初に日本の「福音主義の歴史」研究の批評を行う。その上で「国際教会関係史」の観点を確立し、19 世紀後半～20 世紀後半（1865-2010）までの米日の第三次、第四次大覚醒運動期の福音主義神学と信仰復興運動論、教会形成史について講義と史料分析を行う。			
<履修条件> 前期に同じ。			
<授業計画> 第 1 回：コースの紹介。講義（一）「マックラクリンの北米大覚醒運動史」のおさらい 第 2 回： 講義（二）：19 世紀後半の北米神学の諸相：南北戦争以後の北米の社会と宗教の変貌（T.L.スミス） 第 3 回：史料分析（一）：19 世紀後半の「第三次大覚醒運動」（1870～1920）「都市の信仰復興」について 第 4 回：史料分析（二）： D. L. ムーディー（1）：ムーディーの諸説教にみる福音主義神学と教会 第 5 回：史料分析（三）：D.L.ムーディー(2)：彼の信仰復興論「教会に行かぬ人に福音をどう届けるか？」 第 6 回：講義（三）：20 世紀初頭の日本の「大挙伝道」および「神の国」運動：本多庸一、植村正久、賀川豊彦 第 7 回：史料分析（四）：20 世紀前半の第一次世界大戦後の北米の「近代主義」対「根本主義」論争 第 8 回：講義（四）：A.J.シンプソン：『四重の福音』；A.J.ゴードン『み霊の務め』 第 9 回：史料分析（五）：日本における神学の変貌：中田重治のホーリネス神学と逢坂元吉郎 の高教会神学 第 10 回：講義（五）：20 世紀後半の「第四次大覚醒〔戦後信仰復興〕運動」（1950～1990?） 第 11 回：史料分析（六）：ビリー・グラハム（1）：略歴と神学諸テーマ（啓示、創造と墮罪、贖罪） 第 12 回：史料分析（七）：ビリー・グラハム(2)：諸テーマ（救済、教会、説教と聖礼典、終末論） 第 13 回：講義（六）：第二次世界大戦後日本における「戦後信仰復興運動」の神学、信仰復興、教会形成。 第 14 回：講義（七）：1980 年代後の英米日の福音主義諸派の動向：北米の「宗教的右派」、「福音派」の動向。 第 15 回：総合討論：通年の学びからみた「福音主義」とその歴史の総括。 定期試験			
<準備学習等の指示> 前期に同じ。			
<テキスト> ①W. G. McLoughlin, <i>The American Evangelicals, 1800-1900</i> , Harper and Low, 1968(コピー本で配布)．② D.A. Sweeney, <i>The American Evangelical Story</i> , Baker, 2005.（部分的にコピー資料として配布）。			
<参考書・参考資料等> 授業の中で、教員が追って指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 後期で扱ったテーマを一つ取り上げ、それに関連した重要な第一次史料を批判的に分析し自分の解釈にもとづくレポートを作成せよ。分量は 400 字詰め原稿用紙に換算して 20－25 枚以内。			

組織神学専攻・歴史神学関係			
教会史特講Ⅱ a		藤本 満	<担当形態> 単独
前期・2単位		<登録条件> 通年の履修が望ましい	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
<授業のテーマ> ウェスレーの生涯、メソジスト運動の概要を理解する。			
<到達目標> 18世紀信仰復興運動のプロテスタント史における位置づけ、現代的意義を確認する。			
<授業の概要> ウェスレーに流れ込んだ思想的・信仰的背景を学び、信仰復興運動を指導し、やがてメソジスト教会、それと分岐するホーリネス運動、日本のメソジスト教会の歴史、現代のメソジスト教会の関心事に注目する。			
<履修条件>			
<授業計画> 1. イギリス宗教改革の特色 2. 17世紀アングリカンモラリズムとピューリタニズム 3. ドイツ敬虔主義と啓蒙主義 4. オックスフォードメソジスト 5. ジョージア宣教と挫折 6. アルダスゲイト体験の意義 7. 野外説教とメソジスト運動 8. 信仰復興運動 その1 英米のリバイバルの特質 9. 信仰復興運動 その2 賛美と霊性 10. 「全き聖化」のリバイバル 11. メソジスト伝道者像 12. カリスマ指導者の死 13. 教会化と19世紀ホーリネス運動 14. 日本メソジスト教会 15. 世界のメソジストの動向			
<準備学習等の指示> 指定された資料を読む。			
<テキスト> 藤本満『ウェスレーの神学』（Amazon, Kindle 版）			
<参考書・参考資料等> 藤本満『わたしたちと宗教改革』（第一巻：歴史）日本基督教団出版局			
<学生に対する評価（方法・基準）> 1. 授業における討論への積極的参加 2. ウェスレーの生涯における出来事の一つを取り上げ、彼の生涯とメソジストへの意義を論じる。 (A4用紙、40字×30行×3枚程度)			

組織神学専攻・歴史神学関係			
教会史特講Ⅱ b		藤本 満	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位		＜登録条件＞ 通年の履修が望ましい	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 一次資料を用いながら、ウェスレー神学に特色ある項目を学び、宗教改革者・啓蒙主義・東方教父などと比較研究を試みることで、ウェスレー神学の公同性と独自性を学ぶ。			
＜到達目標＞ ウェスレー神学の全体像と主要な各論を習得する。			
＜授業の概要＞ 一次資料を用いながら、ウェスレー神学に特色ある項目を学び、宗教改革者・啓蒙主義・東方教父などと比較研究を試みることで、ウェスレー神学の公同性と独自性を学ぶ。			
＜履修条件＞			
＜授業計画＞ 1. 先行の恵み（人間論） 2. 信仰義認 3. 救いの確証 4. 選びの教理をめぐっての論争 5. 聖化その1 論争 6. 聖化その2 心と生活 7. キリスト者の完全 8. 最後の義認 9. 教会論 10. サクラメント 11. ウェスレーとルター 12. ウェスレーとカルヴァン 13. ウェスレーと啓蒙主義 14. ウェスレーと東方教会 15. ウェスレー解釈をめぐって			
＜準備学習等の指示＞ 指定された資料を読む。			
＜テキスト＞ 藤本満『ウェスレーの神学』（Amazon, Kindle 版）。			
＜参考書・参考資料等＞ 『ウェスレー説教53』3巻（インマヌエル出版事業部、あるいはAmazon Kindle 版）			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 1. 授業における討論への積極的参加 2. ウェスレー神学の一項目を取り上げて、論じる。（A4用紙、40字×30行×4枚程度）			

組織神学専攻・歴史神学関係		
修士論文指導演習 歴史神学Ⅰ	棚村 重行	＜担当形態＞ 単独
後期・2単位	＜登録条件＞ 歴史神学専攻者	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
＜授業のテーマ＞ 歴史神学の研究と論文作成の技法を習得する。		
＜到達目標＞ 履修者は、先ず学術論文の書き方の原則を学ぶ。その後、各自の研究テーマに関する第一次、第二次資料の区別や、読み方、扱い方、そして歴史論文のまとめ方の技法を学習することを目標とする。		
＜授業の概要＞ 後期のセミナーでは、前半は下記のテキストを読み、研究や論文作成の技法を学ぶ。後半では、各自の研究テーマについて中間報告を複数回行い、学期末には研究レポートを作成、提出する。		
＜履修条件＞ 歴史神学専攻の大学院修士1年次生を対象とする。		
＜授業計画＞ 第1回 コースの紹介。各自の研究テーマの紹介。 第2回 導入講義「歴史神学とはなにか？」 第3回 発表（一） 澤田『論文の書き方』第一章 第4回 発表（二） 上記テキスト、第二章 第5回 発表（三） 同上、第三章 第6回 発表（四） 同上、第四章 第7回 発表（五） 同上、第五章 第8回 発表（六） 同上、第六章 第9回 発表（七） 同上、第七章 第10回 発表（八） 同上、第八章 第11回 中間発表（一） 一～二名 第12回 同上（二） 一～二名 第13回 同上（三） 一～二名 第14回 同上（四） 一～二名 第15回 総合討論。		
＜準備学習等の指示＞ テキストは予め読んでおくこと。		
＜テキスト＞ 澤田昭夫『論文の書き方』、講談社学術文庫、2004年。（コピーテキストを配布する。）		
＜参考書・参考資料等＞ J.H. アーノルド『一冊でわかる 歴史』、岩波書店、2006年。		
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 発表、討論などの内容その他で評価を与える。		

組織神学専攻・歴史神学関係			
修士論文指導演習 歴史神学Ⅱ		棚村 重行	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞ 歴史神学専攻者	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校）		
	＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 大学院修士課程二年次の学生に開講される修士論文準備コース。			
＜到達目標＞ 履修者は、先ず学術論文の書き方の原則を学ぶ。その後、各自の研究テーマに関する第一次、第二次資料の区別や、読み方、扱い方、そして歴史論文のまとめ方の技法を学習することを目標とする。			
＜授業の概要＞ 前半では、下記の最新の歴史研究入門書を読む。その後修士論文提出予定者が各自のテーマにもとづき、二回修士論文の中間発表を行う。教師と参加者は、質疑応答やコメントを通して、各自の準備を助ける。			
＜履修条件＞ 原則として歴史神学専攻で修士課程二年次の学生の履修を求める。			
＜授業計画＞ 第1回 コースの紹介と発表の決定。 第2回 導入講義「歴史神学の研究視点」 第3回 歴史学入門テキスト発表（一）、 『一冊でわかる 歴史』 1, 2章 第4回 同上（二）、同上書 3, 4章 第5回 同上（三）、同上書 5, 6章 第6回 同上（四）、同上書、7章と全体討論。 第7回 第一次発表（一） 二名。とくに論文のテーマや構成、方法論、参考文献など。 第8回 同上（二） 二名発表。 第9回 同上（三） 二名発表。 第10回 同上（四）一～二名発表。 第11回 第二次発表（一） 二名発表。 第12回 同上（二） 二名発表。 第13回 同上（三） 二名発表。 第14回 同上（四） 一～二名発表。 第15回 総合討論。			
＜準備学習等の指示＞ テキストは予め読んで意見をまとめよ。			
＜テキスト＞ J.H.アーノルド『一冊でわかる 歴史』岩波書店、2006年。（コピーテキストを配布する。）			
＜参考書・参考資料等＞ 後に授業で紹介する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞授業参加態度、出席、発表の内容など総合して評価を与える。			

組織神学専攻・実践神学関係		
キリスト教教育特講 a	長山 道	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校・高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に定める科目（中学校及び高等学校 宗教）	
<授業のテーマ> キリスト教教育の古典的な文献を読み、今日の教会や学校における実践に生かすことを目指す。		
<到達目標> 近代の神学書を読み、神学的に考える力を身につける。シュライアマハーの教育思想の特徴を理解し、現代の課題との関連で考察できるようになる。		
<授業の概要> キリスト教教育の古典的なテキストを精読し、担当者の講義により理解を深め、議論することを通して、今日のキリスト教教育のあり方を考察する。		
<履修条件> 特になし		
<授業計画> 第1回 オリエンテーション、シュライアマハー概説 第2回 教育理論の基礎づけ 第3回 倫理学及び政治学との関連における教育論の基礎 第4回 倫理学と人間学の枠の廃棄 第5回 教育の力と限界 第6回 教育理論の適用性の範囲 第7回 教育目標の第一の規定 第8回 教育目標の第二の規定 第9回 教育における平等と不平等 第10回 不平等が個人的に生まれつきのものであると前提した場合 第11回 発展の差異 第12回 教育活動における差異 第13回 助成と抑制の対立の教育課題の二重性に対する関係 第14回 だれが教育すべきなのか 第15回 性の差異		
<準備学習等の指示> テキストにあらかじめ目を通しておくこと。		
<テキスト> シュライエルマッハー（長井和雄、西村皓訳）『教育学講義』、玉川大学出版部、1999年。担当者が用意する。		
<参考書・参考資料等> 講義中に適宜指示する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> レポート、議論への貢献度を総合的に評価する。		

組織神学専攻・実践神学関係			
キリスト教教育特講 b		長山 道	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校・高等学校）		
	<科目> 教科及び教科の指導法に定める科目（中学校及び高等学校 宗教）		
<授業のテーマ> 福音主義的キリスト教教育学の代表的な文献を読み、今日の教会における教育に生かすことを目指す。			
<到達目標> 神学書をクリティカルに読みこなす力、神学的に考える力を身につける。キリスト教教育学の根本問題を理解し、現代の課題との関連で考察できるようになる。			
<授業の概要> キリスト教教育学の重要なテキストを精読し、理解を深め、議論することを通して、今日の教会教育のあり方を考察する。			
<履修条件> 特になし			
<授業計画> 第1回 オリエンテーション 第2回 教会の現状 第3回 問題－信仰義認に基づく教会のわざ 第4回 聖書神学における新しい啓示理解 第5回 コミュニケーションの媒体としての教会生活 第6回 聖書の人間観 第7回 新生の提示 第8回 罪の本質を認識する責任 第9回 新生の現実を確信する責任 第10回 新しい契約の倫理 第11回 新しい契約における自由の堅持 第12回 新しい契約の生活教育 第13回 信仰による歴史解釈 第14回 聖書的歴史観の意義 第15回 教会の使命遂行の責任			
<準備学習等の指示> テキストに目を通しておくこと。			
<テキスト> ヘンダーライト（山内一郎訳）『教会教育の神学－赦しと希望』、日本基督教団出版局、1968 年。担当者が用意する。			
<参考書・参考資料等> 講義中に適宜指示する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> レポート、議論への貢献度を総合的に評価する。			

組織神学専攻・実践神学関係			
実践神学演習 a		小泉 健	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 前期は竹森満佐一の説教を説教学的に考察し、説教について学ぶ。			
＜到達目標＞ 説教分析の方法を身につけること。それを用いて実際の説教が分析できるようになること。			
＜授業の概要＞ 竹森の説教そのものを読むことと、加藤常昭『竹森満佐一の説教』における批評を読むこととを交互に行う。			
＜履修条件＞			
＜授業計画＞ 第1回 オリエンテーション 説教分析とは何か 第2回 説教「ルカによる福音書第2章1～20節」を読む 第3回 上記の説教についての批評（テキスト53～80頁）を読む 第4回 説教「マルコによる福音書第15章33～41節」を読む 第5回 上記の説教についての批評（81～119頁）を読む 第6回 説教「ヨハネによる福音書第20章28節」を読む 第7回 上記の説教についての批評（120～160頁）を読む 第8回 説教「ローマ人への手紙第1章19～20節」を読む 第9回 上記の説教についての批評（161～190頁）を読む 第10回 説教「ローマ人への手紙第5章3～5節」を読む 第11回 上記の説教についての批評（191～213頁）を読む 第12回 説教「ローマ人への手紙第5章6～11節」を読む 第13回 上記の説教についての批評（214～237頁）を読む 第14回 説教「ガラテヤ人への手紙第4章16～20節」を読む 第15回 上記の説教についての批評（238～267頁）を読む			
＜準備学習等の指示＞ 説教については自分なりの分析をしておく。加藤の批評は自分の分析と照らし合わせてみる。			
＜テキスト＞ 加藤常昭『竹森満佐一の説教——信仰をぶつける言葉』教文館、2016年。 竹森満佐一の説教についてはプリントを配布する。			
＜参考書・参考資料等＞ 加藤常昭『説教批判・説教分析』教文館、2008年			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 発表、討論への参加によって評価する。			

組織神学専攻・実践神学関係			
実践神学演習 b		小泉 健	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
<授業のテーマ> 後期はリチャード・J・フォスター『スピリチュアリティ 成長への道』をテキストにし、霊性神学について学ぶ。			
<到達目標> 霊性の「修行」はプロテスタントでは禁じられてきた。それを踏まえつつ、テキストが主張する「成長への道」を批判的に吟味し、プロテスタント的な霊性を養う道を見出す。			
<授業の概要> 毎回発表担当者が割り当てられた箇所についての要約とコメントをし、その上で、わたしたちの霊性とその成長教会における牧会を視野に収めながら討論する。			
<履修条件>			
<授業計画> 第1回 オリエンテーション プロテスタント的霊性とは何か 第2回 第1章 霊的訓練・自由への扉 第3回 第2章 瞑想の訓練 第4回 第3章 祈りの訓練 第5回 第4章 断食の訓練 第6回 第5章 学習の訓練 第7回 第6章 単純の訓練 第8回 第7章 独居の訓練 第9回 第8章 服従の訓練 第10回 第9章 奉仕の訓練 第11回 第10章 告白の訓練 第12回 第11章 礼拝の訓練 第13回 第12章 導きの訓練 第14回 第13章 祝賀の訓練 第15回 再考 プロテスタント的霊性とは何か			
<準備学習等の指示> 必ず事前にテキストを読み、質問やコメントを用意してくること。			
<テキスト> リチャード・J・フォスター『スピリチュアリティ 成長への道』日本キリスト教団出版局、2006年。			
<参考書・参考資料等> 篠原明『「霊性の神学」とは何か——福音主義の霊性を求める対話』あめんどう、2019年。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 発表、討論への参加によって評価する。			

組織神学専攻・実践神学関係		
キリスト教教育特研 a	朴 憲郁	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件>	
<授業のテーマ> ヨーロッパにおける宗教教育		
<到達目標> 今やキリスト教的伝統の自明性が崩れゆくヨーロッパ世界では、キリスト教の世俗化と他宗教信仰の移民の流入などで、宗教が流動化し多元化する社会を現出させている。しかし、将来の共同社会の形成に不可欠なく人間の尊厳、自由、民主主義、平和>を子供たちの間で培う際に重要な役割を担う宗教教育が、正教分離原則の諸国でどのように実施されているのかを把握したい。		
<授業の概要> 最初に、近年の欧米諸国の宗教事情を全体的に把握する。その上で、いわゆる先進諸国における宗教教育がどのようになされているか、また何を指すのかを、諸資料を用いた共同作業（発表を含む）によって把握していく。		
<履修条件> 特にないが、授業の後半で文献を読み合わせ、必要に応じて発表していただく。		
<授業計画> 第1回 ヨーロッパの宗教教育を巡って（序論） 第2回 欧米諸国の宗教事情－カナダ－ 第3回 欧米諸国の宗教事情－ロシア－ 第4回 欧米諸国の宗教事情－スペイン－ 第5回 欧米諸国の宗教事情－スウェーデン－ 第6回 欧米諸国の宗教事情－イギリス－ 第7回 欧米諸国の宗教事情－ドイツ－ 第8回 欧米諸国の宗教事情－フランス－ 第9回 欧米諸国の宗教事情－イタリア－ 第10回 欧米諸国の宗教事情－アメリカ－ 第11回 ヨーロッパにおける宗教と教育－スイス－ 第12回 ヨーロッパにおける宗教と教育－イギリス－ 第13回 ヨーロッパにおける宗教と教育－ドイツ－ 第14回 ヨーロッパにおける宗教と教育－オランダ－ 第15回 ヨーロッパにおける宗教と教育－フィンランド－ 宗教教育学の総括 定期試験		
<準備学習等の指示> 次週の授業範囲の関連資料を、各自前もって読んでおくこと。随時、担当箇所を発表していただく。		
<テキスト> 1. 文化庁、『海外の宗教事情に関する調査報告書』、平成20年版／平成24年版、 2. Peter Schreiner (ed.), “Religious Education in Europe, Comenius Institute, Münster 2000. 上の二つのテキストは担当教師が用意する。		
<参考書> 1. 善家幸敏、『国家と宗教』－政教関係を中心として－、成文堂、平成5年(1993年) 2. Peter Schreiner, “Religious Education in the European Context”, Hungarian Educational Research Journal; One Blog by Peter Schreiner, Religion and Education in Europa, 2013~2014.		
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業時の発表、討論への参加度によって評価する。 2/3以上の授業出席者を評価の対象とする。		

組織神学専攻・実践神学関係		
キリスト教教育特研 b	朴 憲郁	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件> 特になし	
<授業のテーマ> アメリカ宗教教育史		
<到達目標> 近現代アメリカ市民社会と教会を支えた代表的なキリスト教教育思想の流れを把握する		
<授業の概要> 初めに16～17世紀前半のニューイングランド・ピューリタニズムにおける高等教育を取り上げた後、17世紀後半から20世紀前半までのプロテスタント諸教派を背景とする道徳・宗教・教育、及びその代表的な担い手となった指導者たちの思想を追っていく。その際に会衆派とメソジスト派の系譜を辿ってみる。最後に、日本のキリスト教大学の使命と課題を取り上げる。		
<履修条件> 履修者は授業時に1～2度発表の機会を得るが、発表しない学生も当該箇所を事前に読んで準備し、討論に加わっていただく。		
<授業計画> 1. ニューイングランド・ピューリタニズムにおける高等教育 2. 会衆派教会の経験と慈愛、道徳共同体の構築 3. B.フランクリンの非宗派的な道徳的人間形成ーピューリタニズムと理神論の背景ー 4. アメリカ中西部のキリスト教教育ーコモン・スクーラー 5. 長老派信仰のキリスト教教育観ーマクガフィーの場合ー 6. マサチューセッツの宗教教育・道徳教育ー会衆派とユニテリアニズムー 7. マサチューセッツの宗教教育政策 8. コークスベリー・カレッジの教育 9. メソジスト派カレッジと教育方針 10. プロテスタント大学の高等教育 11. 非宗派的キリスト教大学 12. 日本のキリスト教大学の草創期ーその1ー 13. 日本のキリスト教大学の草創期ーその2ー 14. キリスト教大学の教育論ー環境教育の視点ー 15. キリスト教大学の教育論ー変わりゆく大学の中でー 定期試験		
<準備学習等の指示> セミナー形式で、発表学生以外の受講者も、指定箇所を予め読んで授業に臨むこと。		
<テキスト> ・東京基督教大学共立基督教研究所編、『大学とキリスト教教育』、ヨルダン社、1997年（当該箇所プリント用意） ・大森秀子、『多元的宗教教育の成立過程』、東信堂、2009年（各自購入）		
<参考書> ・四国学院大学キリスト教教育研究所[編]、『大学とキリスト教教育』、新教出版社、2005年 ・P.G.アルトバック・馬越編、『アジアの高等教育改革』、玉川大学出版部、2006年 ・青山学院大学総合研究所キリスト教文化研究所[編]、『キリスト教大学の使命と課題』、教文館、2011年		
<学生に対する評価（方法・基準）> 2/3以上の出席を評価の前提とする。発表と討論での発言などの参加度、レポート（4000～5000字、その際参考文献2冊以上列举、利用のこと）提出などで評価する。		

組織神学専攻・実践神学関係		
臨床牧会教育 a	ウェイン・ジャンセン	<担当形態> 単独
前期・2単位	<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	該当せず	
<授業のテーマ> 病院での実習により、牧会的な心得を身につけること。		
<到達目標> 自分の牧会者像を明確にする。		
<授業の概要> 吉祥寺病院（精神科）を実習のフィールドとして、医師、看護師、ソーシャルワーカー等の協力を得、患者との面接を行い、講師のスーパーヴィジョンを受けて、实际的にカウンセリングを学ぶ。		
<履修条件> 講義は登録者2人以上から6人未満で成立する。		
<授業計画> ＊オリエンテーション ＊院長による精神病理の講義。病院見学。 ＊病棟で患者と面接を行い、ケアを与えることを学ぶ。 ＊面接記録をスーパーヴァイザー（担当教員）に提出し、コメントをうける。 ＊各学生によるケース提出とディスカッションを行う。 		

組織神学専攻・実践神学関係		
臨床牧会教育 b	ウェイン・ジャンセン	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	該当せず	
<授業のテーマ> 病院での実習により、牧会的な心得を身につけること。		
<到達目標> 自分の牧会者像を明確にする。		
<授業の概要> 吉祥寺病院（精神科）を実習のフィールドとして、医師、看護師、ソーシャルワーカー等の協力を得、患者との面接を行い、講師のスーパーヴィジョンを受けて、实际的にカウンセリングを学ぶ。		
<履修条件> 臨床牧会教育 a を終えていること。		
<授業計画> *各回、各病棟におもむき、患者と出会い、カウンセリングを行う。 *面接記録（逐語記録）をつくり、スーパーヴァイザー（担当教員）に提出し、コメントを得、話し合いをする。 *各自のケース・レポートをし、ケース・スタディをする。 第1回から第15回まで、様々な牧会ケアテーマで学び、自分の牧会者像を明確にする。		
<準備学習等の指示> 遅刻をしないこと。 休まないこと。		
<テキスト> 必要に応じて配る。		
<参考書・参考資料等> 聖書		
<学生に対する評価（方法・基準）> 実習の参加度によって評価する。 期末面談によって評価する。		

専攻間共同科目			
日本伝道論演習 a		芳賀 力	＜担当形態＞ 単独
前期・2単位		＜登録条件＞通年で登録することが望ましい。	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 日本伝道の課題について具体的に考え、共に実践的な作業をする。			
＜到達目標＞ その遂行のためのストラテジーを、現代人へのメッセージとして明確に発信できるようにする。			
＜授業の概要＞ 毎回、最初に問題提起のプレゼンテーションを行う。それに対するリスポンスの時間を設け、オープン・ディスカッションをする。アピール文をメッセージとして作成し、批評しあい、共有する。			
＜履修条件＞ 特に専攻にこだわらない。			
＜授業計画＞ 第1回 オリエンテーション：二階建論、日本人の共同幻想 第2回 戦後のセキュラリズム(1) 無宗教的世俗化 第3回 戦後のセキュラリズム(2) 世俗的疑似宗教化 第4回 功利的個人主義と聖書のナラティブ 第5回 使徒的共同体の形成、都市と地方、メディア支配の時代 第6回 教育を通しての伝道 第7回 熟年層への伝道、試練と試み 第8回 高齢者への伝道 第9回 本地垂迹説とパウロの伝道、多元主義と特定主義 第10回 底流としてのアニミズム、自然主義 第11回 平安密教系の加持祈祷、俗信と創造信仰 第12回 鎌倉浄土系の彼岸往生、祖先崇拜と終末論、死と希望 第13回 鎌倉禅仏教系の無の思想、仏教とキリスト教 第14回 明治のナショナリズム、現代のナショナリズムとグローバリズム 第15回 総括			
＜準備学習等の指示＞ プレゼンテーションを踏まえ、手紙や修養会レジュメ、黙想など、短い文章をホームワークとして作成する。			
＜テキスト＞ 拙著『使徒的共同体』教文館、2004年。			
＜参考書・参考資料等＞ 毎回レジュメを用意する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 授業中の活発な討論、およびホームワークの発表をもって評価する。			

専攻間共同科目			
日本伝道論演習 b		芳賀 力	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件>通年で登録することが望ましい。	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
<授業のテーマ> 日本伝道の課題について具体的に考え、共に実践的な作業をする。			
<到達目標> その遂行のためのストラテジーを、現代人へのメッセージとして明確に発信できるようにする。			
<授業の概要> 毎回、最初に問題提起のプレゼンテーションを行う。それに対するリスポンスの時間を設け、オープン・ディスカッションをする。アピール文をメッセージとして作成し、批評しあい、共有する。			
<履修条件> 特に専攻にこだわらない。			
<授業計画> 第1回 福音的公同教会の伝道力 第2回 現代における救済概念の変質 第3回 罪と疎外 第4回 救済の語りの諸系譜(1) 犠牲のモチーフ a 第5回 犠牲のモチーフ b 第6回 救済の語りの諸系譜(2) 贖いのモチーフ a 第7回 贖いのモチーフ b 第8回 救済の語りの諸系譜(3) 償いのモチーフ a 第9回 償いのモチーフ b 第10回 救済の語りの諸系譜(4) 裁きのモチーフ a 第11回 裁きのモチーフ b 第12回 信仰の言語 第13回 愛の言語 第14回 希望の言語 第15回 総括			
<準備学習等の指示> プレゼンテーションを踏まえ、現代人にアピールする神学的トラクトの文章をホームワークとして作成する。			
<テキスト> 拙著『救済の物語』日本キリスト教団出版局、1997年。			
<参考書・参考資料等> 毎回レジュメを用意する。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業中の活発な討論、およびホームワークの発表をもって評価する。			

専攻間共同科目			
アジア伝道論演習 a		朴 憲郁	<担当形態> 単独
前期・2単位		<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
<授業のテーマ> 東北・東南アジア・キリスト教伝道の歴史と現実			
<到達目標> 東北・東南アジア諸国におけるキリスト教の意義と役割を基本的に理解することを目指す。			
<授業の概要> 伝道(宣教)学とは何かを序論として解説した後、一国に絞らず、むしろテキストに沿って、東北および東南のアジア諸国におけるキリスト教と伝道の足跡を、その文化と歴史と共に、前・後期に亘って概観する。そのことが、日本伝道の特色とあり方を自覚・反省する素材となることを願う。			
<履修条件> 特にない			
<授業計画> 1. 伝道論（宣教学）とは何か（講義） 2. 伝道論の歴史的経緯、ニュービギンの宣教学（講義） （以下、3から14まで発表と討議、コメント） 3. 景教の東方伝道、韓国のキリスト教（初期カトリック史） 4. 韓国のキリスト教（プロテスタント史） 5. 中国のキリスト教（初期カトリック史） 6. 中国のキリスト教（プロテスタント史） 7. 台湾のキリスト教（16世紀～18世紀） 8. 台湾のキリスト教（19世紀～現代） 9. 香港のキリスト教 10. フィリピンのキリスト教 11. タイのキリスト教 12. マレーシアのキリスト教 13. ミャンマー、カンボジアのキリスト教 14. ベトナム、ラオスのキリスト教 15. 総括 定期試験			
<準備学習等の指示> 指定テキストの中から、毎授業で扱う範囲の箇所を事前に読んで理解を深めておくこと。			
<テキスト> 『アジア・キリスト教の歴史』、日本基督教団出版局編、1991年。絶版のため、各自の購入が困難の場合、随時プリントして進める。			
<参考書・参考資料等> 1. 『アジア・キリスト教史[1]』、1989三版、2. 『アジア・キリスト教史[2]』、1985年初版、重版、教文館。その他、授業時に随時紹介する。絶版のため、各自の購入が困難の場合、随時プリントして進める。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業時の発表、参加度、学期末レポート（5000字以上）などによって評価する。 出席が2／3に満たない者は評価の対象としない。			

専攻間共同科目			
アジア伝道論演習 b		朴 憲郁	<担当形態> 単独
後期・2単位		<登録条件>	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
<授業のテーマ> 南方アジア・キリスト教伝道の歴史と現実			
<到達目標> 南方アジア諸国におけるキリスト教の意義と役割を基本的に理解することを目指す。			
<授業の概要> アジアのキリスト教について解説し、その特質を把握した後、前期に続いて南方広域アジア諸国のキリスト教と伝道の足跡を、その文化と歴史と共に概観する。そのことが、日本伝道の特色とあり方をも自覚的に反省する素材となることを願う。			
<履修条件> 特にない			
<授業計画> 1. アジアのキリスト教の特色と課題 2. アジアのキリスト教における伝道論 (以下、3～14まで発表と討議、コメント) 3. シンガポールのキリスト教 4. インドネシアのキリスト教（歴史と文化、カトリック宣教） 5. インドネシアのキリスト教（プロテスタント宣教） 6. インドのキリスト教（歴史と文化、カトリック宣教） 7. インドのキリスト教（プロテスタント宣教） 8. スリンランカのキリスト教 9. バングラディシュのキリスト教 10. パキスタン・アフガニスタンのキリスト教 11. ブータン・ネパールのキリスト教 12. チベット・シッキムのキリスト教 13. オーストラリアのキリスト教 14. ニュージーランドのキリスト教 15. 東南アジアのキリスト教を回顧して（講義） 定期試験			
<準備学習等の指示> 指定テキストの中から、毎授業で扱う範囲の箇所を事前に読んで理解を深めておくこと。			
<テキスト> 『アジア・キリスト教の歴史』、日本基督教団出版局編、1991年。絶版のため、各自の購入が困難の場合、随時プリントして進める。			
<参考書・参考資料等> 1. 『アジア・キリスト教史[1]』、1989三版、2. 『アジア・キリスト教史[2]』、1985年初版、重版、教文館。その他、授業時に随時紹介する。絶版のため、各自の購入が困難の場合、随時プリントして進める。			
<学生に対する評価（方法・基準）> 授業時の発表、参加度、学期末レポート（5000字以上）などによって評価する。 出席が2／3に満たない者は評価の対象としない。			

実践神学研修課程		
説教学演習Ⅰ	小泉 健	<担当形態> 単独
前期・２単位	<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
<授業のテーマ> 説教の本質を問う説教学的議論に触れつつ、説教作成の方法を吟味し学ぶ。		
<到達目標> 説教作成の方法を職人芸のようにして身につけるだけではなく、つねに説教学的な反省と結びつけながら批判的に習得し、説教者として自己研鑽していくための土台を得ること。		
<授業の概要> 説教準備の一つ一つの段階の意味について考察しつつ、最初の黙想から説教行為までの実際に取り組む。		
<履修条件>		
<授業計画> 第１回 説教と聖書、説教テキストの朗読 第２回 黙想とは何か 第３回 説教学の課題 課題①第一黙想の提出 第４回 釈義と説教準備 第５回 歴史的方法と正典、礼拝における「聖書」、釈義とは何か 第６回 説教学的な聖書の解釈、「解釈と適用」の問題 課題②釈義の提出 第７回 説教黙想とは何か 第８回 釈義と教理、説教と教義学 第９回 説教における説教者 課題③説教黙想の提出 第１０回 会衆をめぐる黙想 第１１回 キリストの物語とわたしたちの生活 第１２回 説教と救済史、終末をめぐる黙想 課題④第二の説教黙想の提出 第１３回 説教の構造と構成 第１４回 説教の始め方と終わり方 第１５回 説教の演述 課題⑤説教原稿の提出		
<準備学習等の指示> 聖書全巻を通読しておくこと。日々の祈りと黙想の生活を確立すること。		
<テキスト> 聖書		
<参考書・参考資料等> R. ボーレン『説教学Ⅰ』『説教学Ⅱ』日本基督教団出版局（Ⅱはオンデマンド） その他については、テーマごとに教室で指示する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 説教作成の諸段階で、その都度レポートを提出する。		

実践神学研修課程			
説教学演習Ⅱ		小泉 健	＜担当形態＞ 単独
後期・２単位		＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 説教学の基本を学び、会衆席の説教学として実際になされた説教を分析する方法を身につける。			
＜到達目標＞ 多様な説教に触れて説教理解を拡大し、説教を享受する力を磨くこと。			
＜授業の概要＞ 説教分析の方法論を明確にし、実際になされた説教を取り上げて、説教分析に実際に取り組む。			
＜履修条件＞			
＜授業計画＞ 第１回 会衆席の説教学 第２回 説教分析と説教分析論 第３回 分析（１）植村正久の説教を読む 第４回 分析（２）竹森満佐一の説教を読む 第５回 分析（３）加藤常昭の説教を読む 第６回 「聖書的」とはどういうことか？——説教における聖書テキスト 第７回 分析（４）マルティン・ルーサー・キングの説教を読む 第８回 分析（５）バーバラ・ブラウン・テイラーの説教を読む 第９回 説教における「わたし」は何者か？——説教における説教者 第１０回 分析（６）ディートリヒ・ボンヘッフアーの説教を読む 第１１回 分析（７）ルドルフ・ボーレンの説教を読む 第１２回 だれに向かって語っているのか？——説教における聞き手と聞き手を取り巻く世界 第１３回 分析（８）ヴァルター・リュティの説教を読む 第１４回 分析（９）山口隆康の説教を読む 第１５回 神の御声が聞こえてきたか？——説教における神の名 ＊さまざまな説教者の説教を読むことを予定しているが、受講者の希望により、受講者の説教を取り上げることも可能である。 ＊希望があれば、自由参加による説教批評のクラスを行う。			
＜準備学習等の指示＞ 聖書全巻の通読を続けること。毎回配布される論文、説教を十分読んで準備すること。			
＜テキスト＞ 授業時に、次回読む説教をプリントにして配布する。欠席した場合は取りに来ること。			
＜参考書・参考資料等＞ 加藤常昭『説教批判・説教分析』教文館、2008年。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 発表と授業への参加度、レポートによって評価する。			

実践神学研修課程	
説教学演習Ⅲ	芳賀 力
後期・2単位	＜登録条件＞修士論文を提出し、卒業に備えている者
＜授業のテーマ＞ テキストの釈義から黙想を経て説教を準備し、実際に説教するに至るまでの過程を体験する。	
＜到達目標＞ 説教者として立つための基本を身に着ける。また相互に説教批評を行い、説教者としての自己吟味の能力をも養う。	
＜授業の概要＞ 担当者を決め、指定された聖書テキストに従って説教を準備し、実際にチャペルで説教する。	
＜履修条件＞ 修士論文を提出し、受理されて、博士課程前期課程修了見込みである者。	
＜授業計画＞ 第1回 説教とは何かを考えながら、テキストの釈義、黙想、構成、説教の弁証法的構造について考察する。 第2回 マタイによる福音書 6：25－34 第3回 マルコによる福音書 5：1－20 第4回 ルカによる福音書 12：13－21 第5回 ヨハネによる福音書 9：1－12 第6回 ローマの信徒への手紙 8：18－25 第7回 コリントの信徒への手紙二 6：1－10 第8回 ガラテヤの信徒への手紙 5：13－15 第9回 テモテへの手紙一 1：12－17 第10回 創世記 12：1－4 第11回 申命記 26：5－11 第12回 詩編 19：1－7 第13回 イザヤ書 43：1－7 第14回 エレミヤ書 31：18－20 第15回 総括	
＜準備学習等の指示＞ 担当箇所を準備を入念にすること。また他の人の説教を聞いて、適切な批評をし、共に学び合うこと。	
＜テキスト＞ 新共同訳聖書	
＜参考書＞ 該当箇所の注解書、黙想集、説教集	
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 説教の内容と語り方全体が問われる。またコメンテーターとしての説教批評も重視される。	

実践神学研修課程		
礼拝学演習	小泉 健	<担当形態> 単独
後期・2単位	<登録条件>	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） <科目> 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）	
<授業のテーマ> 礼拝学の基本、特に教会の礼拝を司る者が身につけるべき礼拝学的思考の特質を学ぶ。		
<到達目標> 教会や学校で礼拝を整え、奉仕者を指導し、結婚式、葬式等の諸式を執り行うことができるようになること。		
<授業の概要> 主日礼拝の主要な要素や、主日礼拝以外の諸礼拝、結婚式、葬儀などについて、毎回テーマを定め、参加者の発表を通して学ぶ。		
<履修条件>		
<授業計画> 第1回 礼拝学的思考の特質について 第2回 聖書における礼拝 第3回 宗教改革の礼拝 第4回 典礼の刷新、東方教会の奉神礼 第5回 現代の礼拝、礼拝改革 第6回 礼拝式と祈祷、祝祷、司式の役割 第7回 賛美、礼拝音楽 第8回 献金・奉獻、礼拝奉仕 第9回 洗礼式、幼児洗礼と幼児祝福 第10回 聖餐礼典 第11回 結婚式・婚約式 第12回 葬儀 第13回 礼拝堂、礼拝堂の使用 第14回 教会暦と聖書日課 第15回 教会学校の礼拝、学校礼拝		
<準備学習等の指示> 発表者だけでなく、参加者全員が自分なりの課題や意見を整理して演習に臨むこと。		
<テキスト> 必要に応じて教室で指示または配布する。		
<参考書・参考資料等> 由木康『礼拝学概論』新教出版社、2011年。 W. ナーゲル『キリスト教礼拝史』教文館、1998年（オンデマンド）。 その他については第1回の授業時にテーマごとに紹介する。		
<学生に対する評価（方法・基準）> 発表と授業への参加度によって評価する。		

実践神学研修課程			
牧会学演習		小泉 健	＜担当形態＞ 単独
後期・２単位		＜登録条件＞	
教職課程における要件・区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校） ＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 実践神学を牧師学としてとらえ、牧師が身につけるべき基本を学ぶ。			
＜到達目標＞ さまざまな牧会の場面において、ふさわしい対応ができる基礎を得ること。ただ一つの正解があるわけではなく、その都度の対応が求められるが、それを神学的に反省する力を身につけること。			
＜授業の概要＞ 牧師が担うべき教務、牧師が実践活動を行う場面を一つずつ取り上げ、参加者の発表を通して必要な知識と方法を身につける。			
＜履修条件＞			
＜授業計画＞ 第１回 牧師学としての実践神学 第２回 召命と准允・按手、「牧師職」、赴任と離任、招聘制度と牧会 第３回 教会でのふるまい、教会での人間関係 第４回 告解・面談・訪問 第５回 結婚と離婚、同性愛 第６回 キリスト者の家庭と信仰の継承 第７回 病者の牧会、病床訪問 第８回 精神障がい者の牧会、牧会カウンセリング 第９回 高齢者の牧会 第１０回 葬儀とその周辺 第１１回 洗礼への導きと受洗準備、受洗後教育 第１２回 聖餐と牧会 第１３回 教会戒規 第１４回 教会会議（教会総会、役員会）と議長職 第１５回 全体教会と個教会、教会の制度、教会共同体の形成			
＜準備学習等の指示＞ 発表者だけでなく、参加者全員が自分なりの課題や意見を整理して演習に臨むこと。			
＜テキスト＞ 必要に応じて教室で指示または配布する。			
＜参考書・参考資料等＞ E. トゥルナイゼン『牧会学Ⅰ』『牧会学Ⅱ』日本基督教団出版局、1961、1970年（オンデマンド）。 ウィリアム・ウィリモン『牧師』新教出版社、2007年。 その他については第１回の授業時にテーマごとに紹介する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 発表と授業への参加度によって評価する。			

実践神学研修課程			
総合特別講義		小泉 健	＜担当形態＞ オムニバス
後期・４単位		＜登録条件＞ 修士論文を提出し、2022 年 4 月に教会・学校に赴任する意志の明確な者	
教職課程に おける要件・ 区分等	教員免許状取得のための選択科目（中学校及び高等学校）		
	＜科目＞ 教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 宗教）		
＜授業のテーマ＞ 牧会・伝道上直面する具体的な問題に適切に対応していくために専門家の指導を受ける。			
＜到達目標＞ 牧会上の典型的な問題とその対策を理解し、自分なりに応用していくための基礎を身につける。			
＜授業の概要＞ それぞれ分野の専門家が、テーマごとに二コマを単位として講義を行う。			
＜履修条件＞ これまでの学びを総合する重要な授業なので、原則として全回出席すること。			
＜授業計画＞ 第1回： 山口隆康名誉教授 「日本基督教団史Ⅰ」 日本基督教団成立前 第2回： 山口隆康名誉教授 「日本基督教団史Ⅰ」 日本基督教団成立後 第3回： 宮本義弘講師 「部落解放とキリスト教」 第4回： 宮本義弘講師 「部落解放とキリスト教」 第5回： 篠浦千史講師 「障がい者と教会」 第6回： 篠浦千史講師 「障がい者と教会」 第7回： 小島誠志講師 「地方伝道」 第8回： 小島誠志講師 「地方伝道」 第9回： 小林光講師 「教会付属幼稚園・保育園（所）の諸問題」 第10回： 小林光講師 「教会付属幼稚園・保育園（所）の諸問題」 第11回： 長山信夫講師 「日本基督教団史Ⅱ」 教団史と紛争史の視点 第12回： 長山信夫講師 「日本基督教団史Ⅱ」 教団紛争」とは何であったか？ 第13回： 増田将平講師 「青年伝道」 第14回： 増田将平講師 「青年伝道」 第15回： 朴憲郁特任教授 「エキュメニズムⅡ（東アジアのエキュメニズム）」 第16回： 朴憲郁特任教授 「エキュメニズムⅡ（東アジアのエキュメニズム）」 第17回： 藤盛勇紀講師 「日本基督教団教憲・教規」 第18回： 藤盛勇紀講師 「各教会規則・宗教法人規則」 第19回： 棚村重行特任教授 「エキュメニズムⅠ（世界のエキュメニズム）」 第20回： 棚村重行特任教授 「エキュメニズムⅠ（世界のエキュメニズム）」 第21回： 高橋貞二郎講師 「学校伝道と教会」 第22回： 高橋貞二郎講師 「学校伝道と教会」 第23回： 洪性完講師 「在日コリアン問題」 第24回： 洪性完講師 「在日コリアン問題」 第25回： ウイリアム・ウッド講師 「キリスト教系諸宗団の問題」 第26回： ウイリアム・ウッド講師 「キリスト教系諸宗団の問題」 第27回： 加藤幹夫講師 「牧会者の試練とその克服」 第28回： 加藤幹夫講師 「牧会者の試練とその克服」 第29回： 春原禎光講師 「ＩＴと伝道」 第30回： 春原禎光講師 「ＩＴと伝道」 第31回： 山崎ハコネ講師 「高齢者ケアと牧会」 第32回： 山崎ハコネ講師 「高齢者ケアと牧会」 第33回： 近藤勝彦名誉教授 「東京神学大学史Ⅰ」 第34回： 近藤勝彦名誉教授 「東京神学大学史Ⅰ」 第35回： 近藤勝彦名誉教授 「東京神学大学史Ⅱ」 第36回： 近藤勝彦名誉教授 「東京神学大学史Ⅱ」 第37回： 山崎忍講師 「刑務所伝道」 第38回： 山崎忍講師 「刑務所伝道」 ※講師は予定。当該年度に決定する。			
＜準備学習等の指示＞ 日本基督教団の補教師試験を受験する者は、「補教師試験の過去問題集」 に目を通しておくこと。			
＜テキスト＞ 「日本基督教団史」「教務関係書式集」「日本基督教団教憲教規および諸規則」等、講師がその都度指示する。			
＜参考書・参考資料等＞ 担当教員、講師がそれぞれの講義の中で紹介する。			
＜学生に対する評価（方法・基準）＞ 教職セミナーを含む毎回の講義の出席を評価の前提とする。学期末には、牧会にあたってとくに有益であったことをまとめたレポート（約 2000 字）を作成する。その末尾に今後の総合講義に対する意見も述べる。			